

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2022年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：178社（65.4%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一人流が増加し観光業を中心に好転、仕入単価や燃料費の上昇、従業員の確保が課題

前年同期（2021年7月～9月）と比べた今期（2022年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2022年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは6.1で、前年同期と比べ32.8ポイント上昇しました。行動制限がなく、観光業や飲食業、旅客運送業を中心に業況が好転しましたが、仕入単価や燃料費の上昇が深刻化しており、採算は低調に推移しました。経済活動や人流の増加に伴う従業員不足も課題です。

業種別DIは、製造業が同15.0ポイント低下の▲20.6となりました。売上DIはプラスに転じましたが、業況DIと採算DIは低下しました。食料品とプラスチックでは約8割の企業が販売単価を上げましたが、採算の悪化傾向が見られます。卸売業は同6.0ポイント上昇の▲15.0となりました。製造業同様に、売上DIはプラスに転じましたが、業況DIと採算DIは低下しました。8割の企業が販売単価を上げましたが、4割の企業では採算が悪化し、資金繰りが好転した企業はありませんでした。小売業は同24.0ポイント上昇の▲12.0となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれも上昇し、売上DIはプラスに転じました。大型店では客単価が上昇したものの、売上と客数は減少傾向にあります。その一方で、菓子や食肉等の食料品小売店では客単価に大きな変化はありませんでしたが、客数が増加し、売上が増加しました。運輸・倉庫業は同51.2ポイント上昇の23.5となりました。道路旅客運送は全社で売上が増加しましたが、従業員不足が課題です。道路貨物運送は売上、採算、業況いずれもやや改善傾向にあります。倉庫は昨年同期から大きな変化はありませんでした。観光業は同117.5ポイント上昇の64.7となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれも大幅に上昇し、プラスに転じました。日本人客数DIや客単価DIも大幅に上昇し、プラスに転じましたが、約6割の企業で従業員が不足し、全ての企業で仕入単価が上昇しています。サービス業は同45.9ポイント上昇の15.4となりました。業況DI、売上DIは大幅に上昇し、プラスに転じました。採算DIは上昇しましたが、マイナス水準にとどまりました。飲食店では全ての企業で売上が増加しましたが、仕入単価も上昇しており、採算や資金繰りが悪化した企業もありました。建設業は同0.5ポイント上昇の▲13.6となりました。業況DI、売上DIはやや悪化し、採算DIは上昇しました。いずれもマイナス水準で推移しました。一般土木工事業では、売上の減少傾向や採算の悪化傾向が見られます。

来期の業況判断DIは▲4.0で、マイナスに転じると予想しています。新型コロナウイルスの影響が弱まり、人流やインバウンドの増加による業況回復が期待される一方で、全ての業種で仕入単価や燃料費の更なる上昇が予想されており、価格転嫁や利益の確保が課題です。

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは6.1で、前年同期（2021.7～9）と比べ32.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

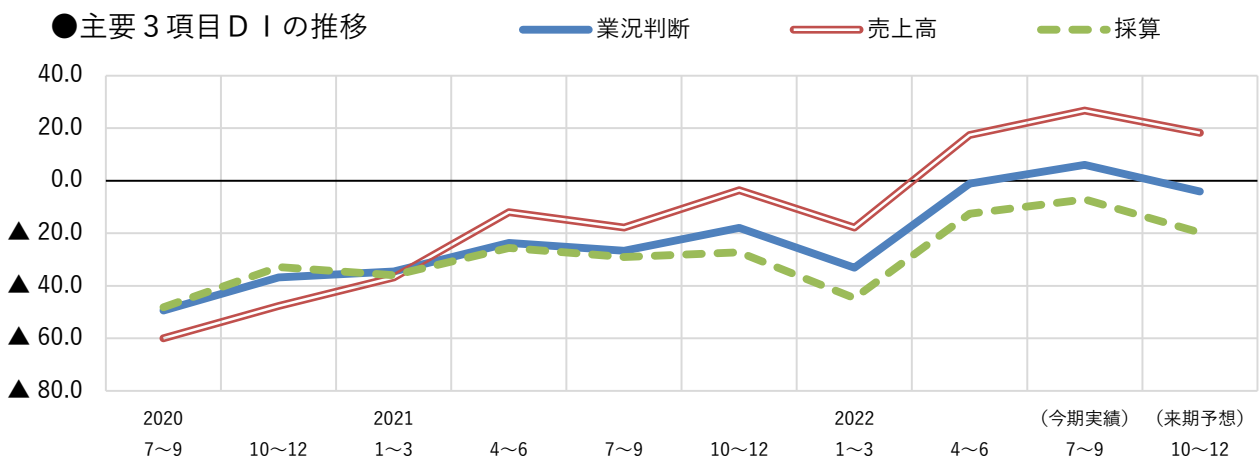
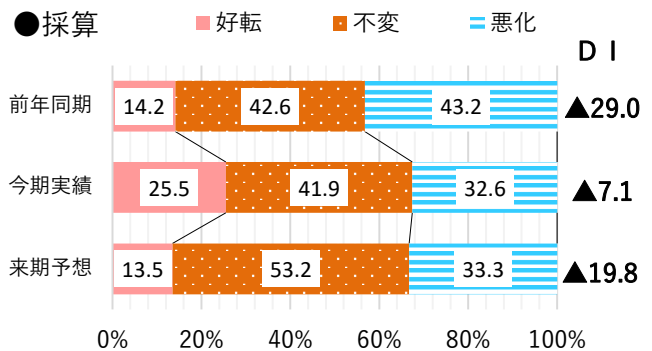
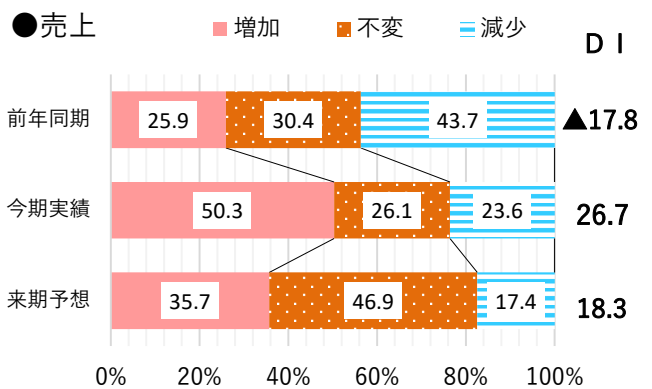
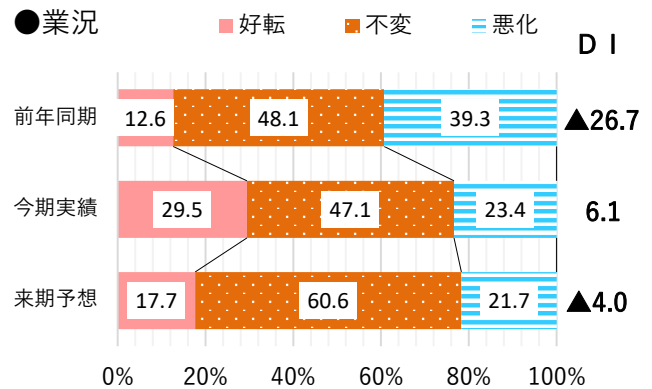
来期（2022.10～12）は、業況がマイナスに転じると予想しています。

今期の売上DIは26.7で、前年同期と比べ44.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは▲7.1で、前年同期と比べ21.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

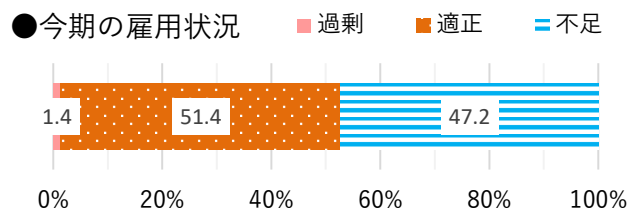
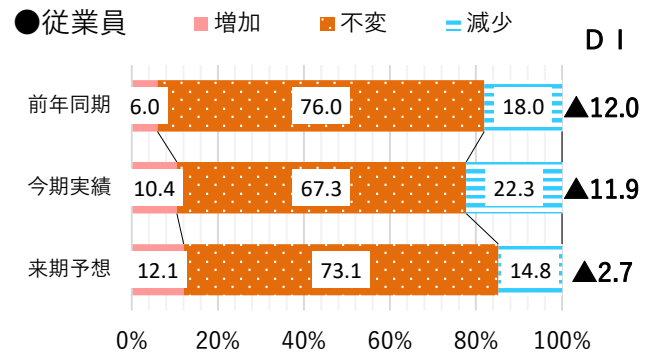
今期の従業員DIは▲11.9で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.4%、適正であると回答した企業の割合は51.4%、不足していると回答した企業の割合は47.2%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の41.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

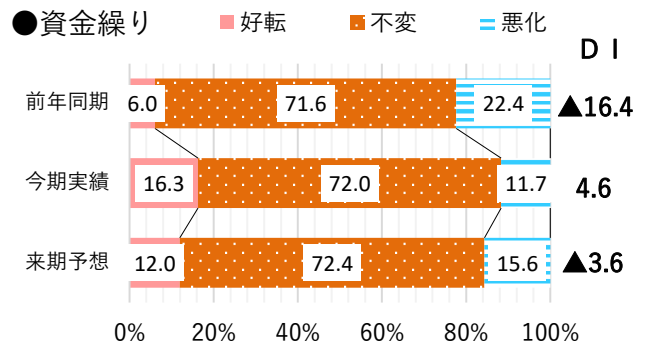


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	9
	不足	11
不変だった	過剰	0
	適正	73
	不足	43
減少した	過剰	3
	適正	7
	不足	32

資金繰り、設備投資

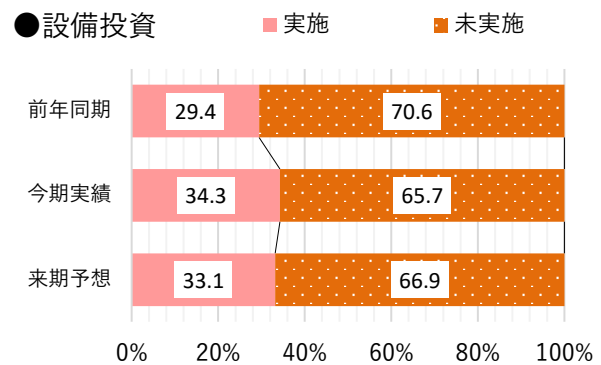
今期の資金繰りDIは4.6で、前年同期と比べ21.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった178社の34.3%にあたる61社が実施、前年同期と比べ4.9%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「生産設備」、「付帯施設」の順です。

来期は、33.1%にあたる59社が設備投資を計画していると回答しています。

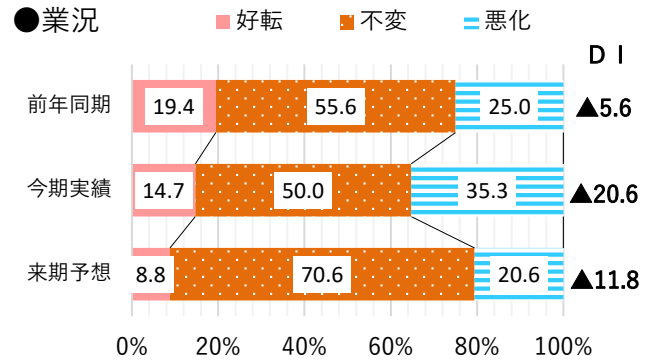


製造業

業況、売上、採算

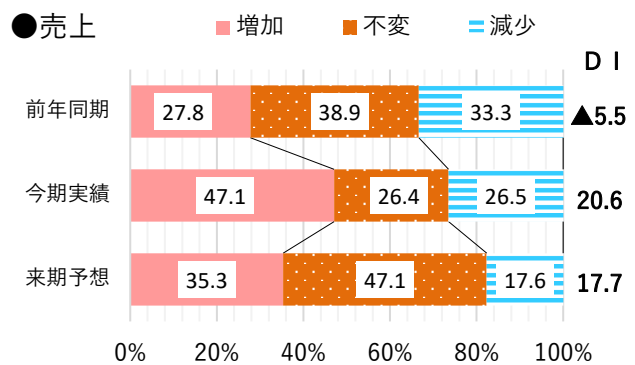
今期(2022.7~9)の業況判断DIは▲20.6で、前年同期(2021.7~9)と比べ15.0ポイント低下しました。

来期(2022.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



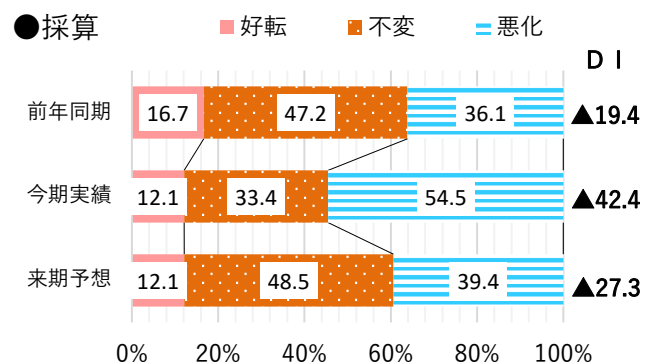
今期の売上DIは20.6で、前年同期と比べ26.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

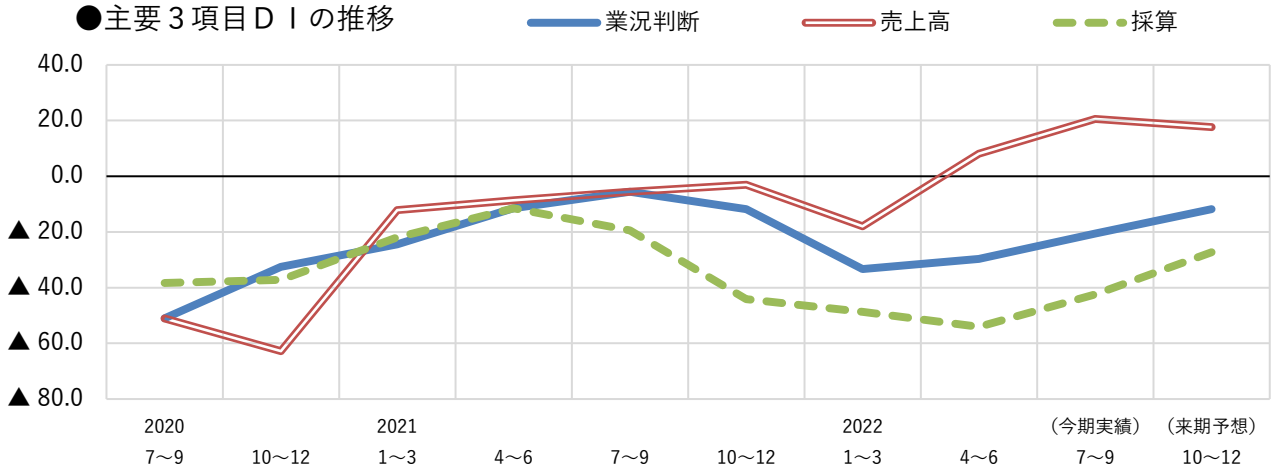


今期の採算DIは▲42.4で、前年同期と比べ23.0ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



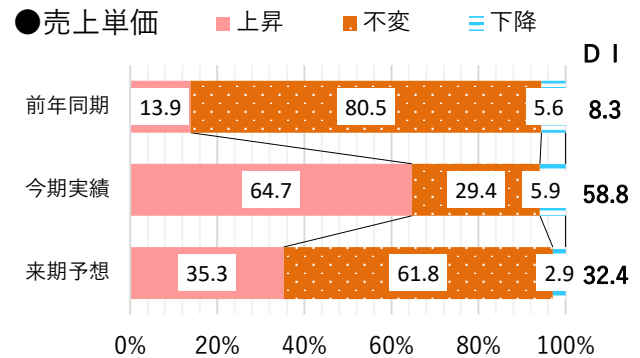
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

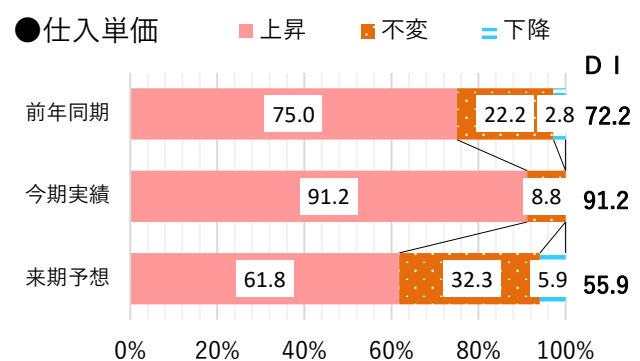
今期の売上単価DIは58.8で、前年同期と比べ50.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



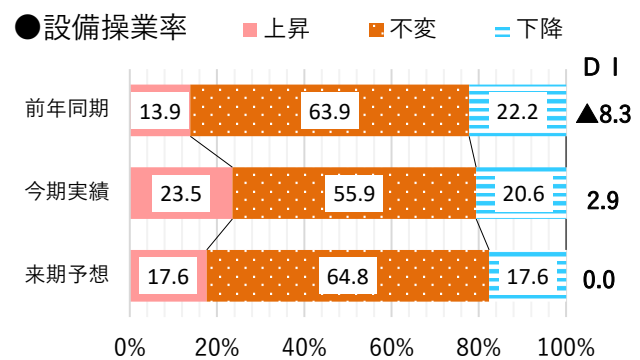
今期の仕入単価DIは91.2で、前年同期と比べ19.0ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは2.9で、前年同期と比べ11.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

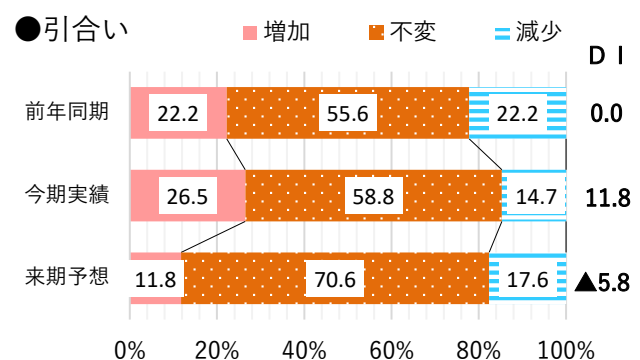
来期は、設備操業率の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは11.8で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

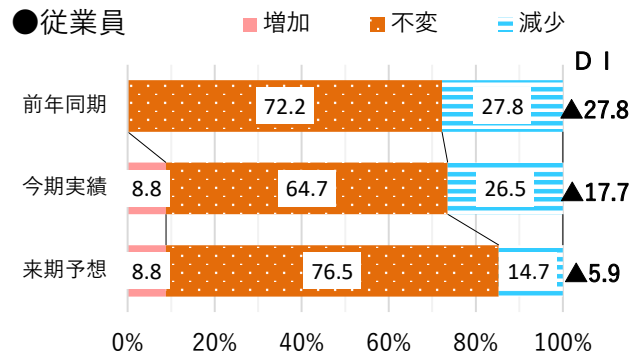
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



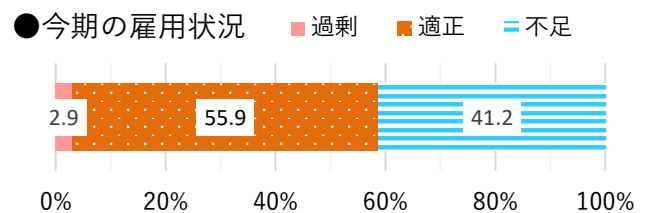
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.7で、前年同期と比べ10.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.9%、適正であると回答した企業の割合は55.9%、不足していると回答した企業の割合は41.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の44.1%を占めています。

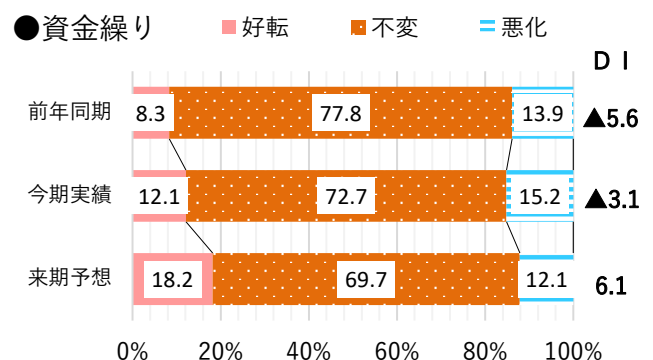
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	7
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	6

資金繰り、設備投資

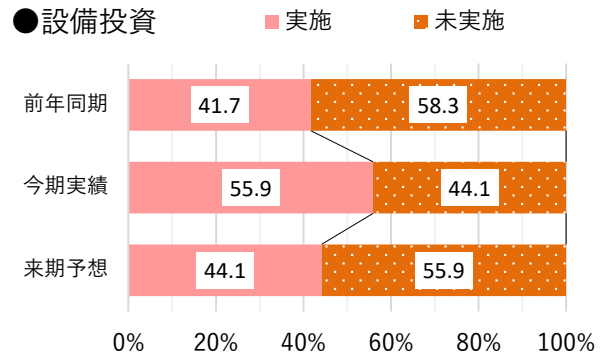
今期の資金繰りDIは▲3.1で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがプラスに転じると予想しています。



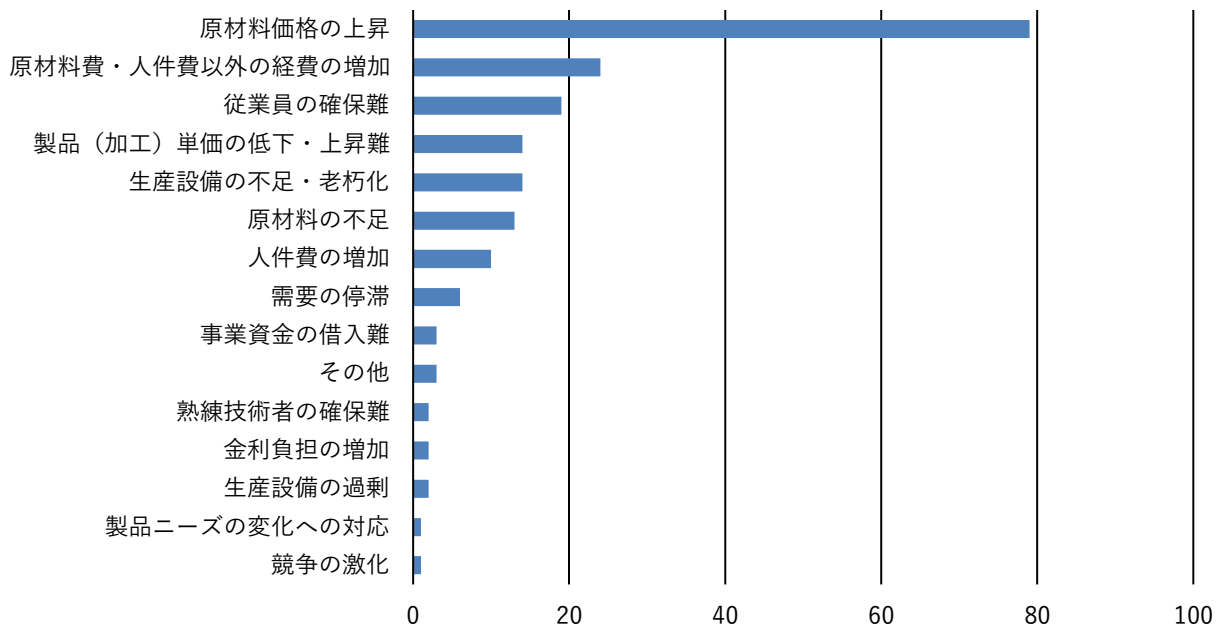
設備投資を実施した企業の割合は55.9%で、前年同期と比べ14.2%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」、「O A 機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.1%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 札幌駅前再開発等の動きが活発だ。材料価格の上昇分は転嫁できていない。（金属製品）
- 円安と原材料高によって不安定な状況だ。（金属製品）
- 5月からの天候不順の影響が7月以降も続き、価格を改定できた商品とできない商品があった。原材料、包装資材、諸経費の上昇に価格改定が全く追いつかず、採算は大幅に悪化した。（食料品）
- 製品により売上が多少増減したが、定番商品の状況に変化はない。原材料や包装資材の価格上昇が止まらず、販売価格を引き上げるだけではカバーしきれない。（食料品）
- 堅調だった加工食品の売上が落ち着いたように思う。主力原料の輸入数の子が円安の影響を受け、価格が高騰している。（食料品）
- 販売価格の値上げで売上が多少増えたが、仕入価格も上昇した。賃金を2～3%引き上げた。（食料品）
- 原材料費と水道光熱費の上昇により、業績が伸び悩んだ。人材確保に苦労している。（食料品）

- 今期分の原材料は確保できたが、製品販売価格を引き上げねばならず、苦戦した。（食料品）
- 主要原料の羊肉の仕入価格の高騰が続いており、店頭販売価格も高い。（食料品）
- 販売価格の引き上げにより、売上と利益がやや増加した。（食料品）
- 家飲み需要の減少に伴い、売上が減少した。（飲料）
- 原材料販売価格と製品価格を引き上げたが、依然として採算が取れていない。自社製品を安定的に供給するには他社から原材料を購入せざるを得ないが、プラント補修費や水道光熱費が転嫁された価格のため、今期の仕入価格は前年同期比140%程度となっている。円安によりさらに値上がりすると思われる。対して前年同期比の売上高は120%程度だった。製品販売価格の引き上げが遅れており、価格転嫁も不十分だ。原材料の調達が難しく、末端の需要が減少している。人材は不足している。（プラスチック）
- 原材料価格が引き上げられた。価格転嫁は2/3程度しかできず、採算が悪化した。（プラスチック）
- 原材料価格の上昇と受注残の減少により、設備操業率が低下した。（プラスチック）
- 円安による仕入値の上昇および原材料価格の高騰が著しく、従来の価格での販売は難しくなった。販売価格を可能な限り引き上げて、より利益を確保できる体制が必要だと考える。（ゴム製品）
- 原材料価格の値上げ等を受け、製品価格を値上げしたが、転嫁しきれていない。青果物等の取引量は増えており、収益は前年並みを維持できた。（紙製品）

[来期の業況について]

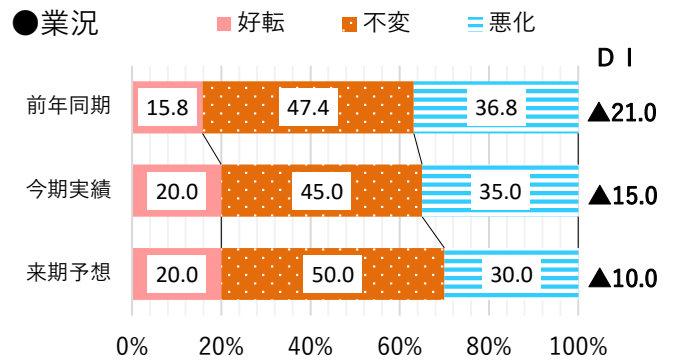
- 原材料価格が安定し始めると思うが、新規物件が動かないため、来年度の動向を注視する。（金属製品）
- 販売価格の引き上げはある程度受け入れられているが、今期に引き続き仕入価格や水道光熱費、消耗品費の引き上げが見込まれるため、採算の悪化は避けられない。（食料品）
- 10月から健康保険、厚生年金保険の適用が拡大され、出勤日数の調整が必要な従業員が増える。生産および売上への減少が懸念される。（食料品）
- 原材料仕入価格の上昇は今後も続く見込みで、利益率の低下が懸念される。販売価格へのこれ以上の転嫁は難しいと思われる。（食料品）
- コロナ禍による外出自粛の雰囲気もなくなってきているので、徐々に売上を安定させたい。（食料品）
- 原材料の種類によっては価格の低下を期待できるが、電気料の高止まりは続くと思う。（食料品）
- 原材料の仕入先の在庫が大幅に減少する見込みなので、売上の減少が予想される。（食料品）
- 人件費や諸費用がさらに増加すると思われる。（食料品）
- 新酒の発売により、売上を回復したい。（飲料）
- 円安と原油価格高騰は続くが、原材料仕入価格は10月以降徐々に低下すると思われる。販売価格を引き上げられれば、昨年同期比140%程度の売上が見込める。（プラスチック）
- 原材料価格は今期と同程度で、高止まりを見込む。価格転嫁を進め、採算を改善する。（プラスチック）
- 引き続き原材料価格の上昇が見込まれる。販売価格への転嫁が急務となる。（プラスチック）
- 原材料の2次値上げがあると思われる。価格転嫁次第で収益は大きく変わるだろう。（紙製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

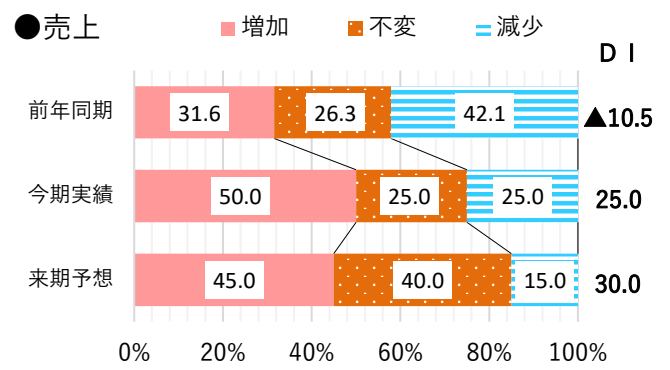
今期(2022.7~9)の業況判断DIは▲15.0で、前年同期(2021.7~9)と比べ6.0ポイント上昇しました。

来期(2022.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



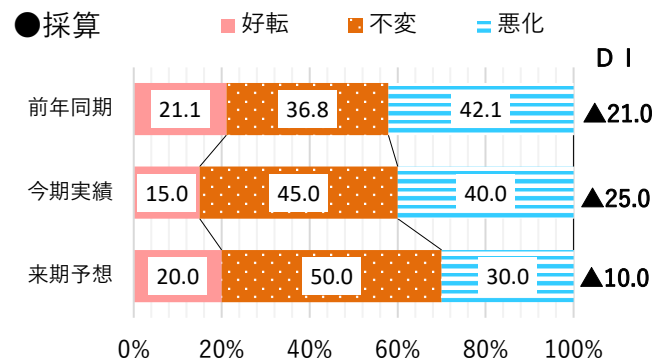
今期の売上DIは25.0で、前年同期と比べ35.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

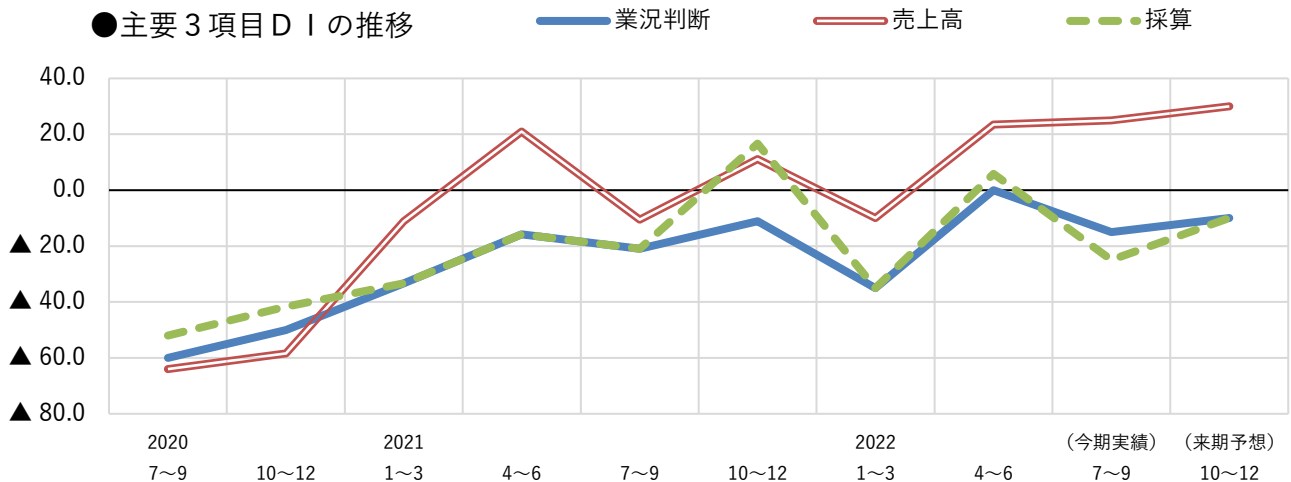


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ4.0ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



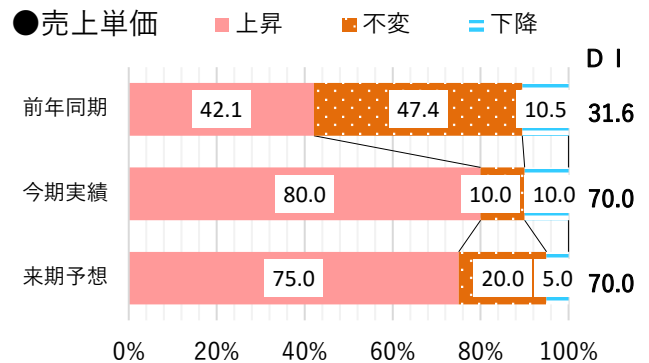
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

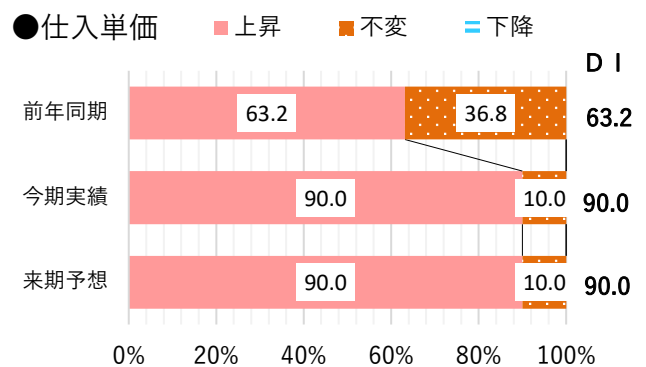
今期の売上単価DIは70.0で、前年同期と比べ38.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の横ばいを予想しています。



今期の仕入単価DIは90.0で、前年同期と比べ26.8ポイント上昇しました。

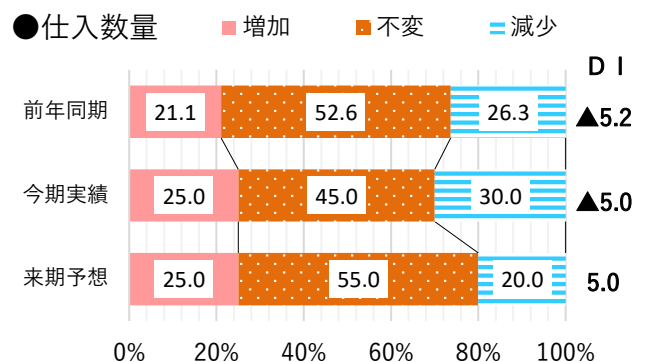
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

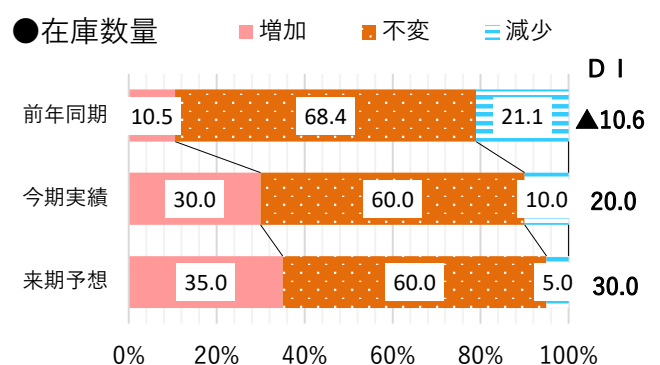
今期の仕入数量DIは▲5.0で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期は、仕入数量がプラスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは20.0で、前年同期と比べ30.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

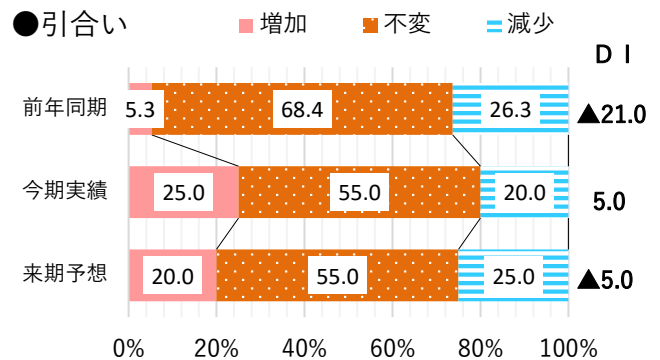
来期は、在庫数量の増加傾向が強まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは5.0で、前年同期と比べ26.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

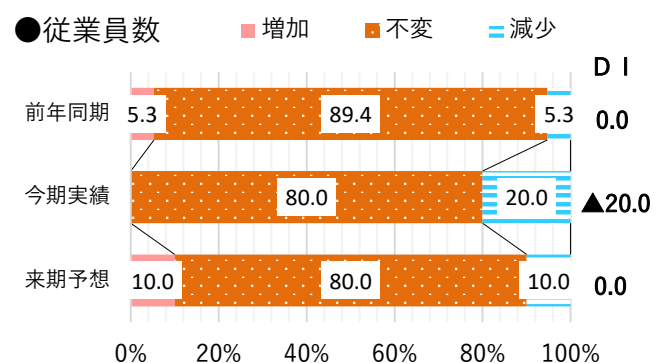
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



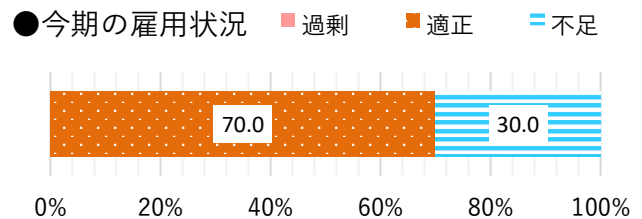
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は70.0%、不足していると回答した企業の割合は30.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の65.0%を占めています。

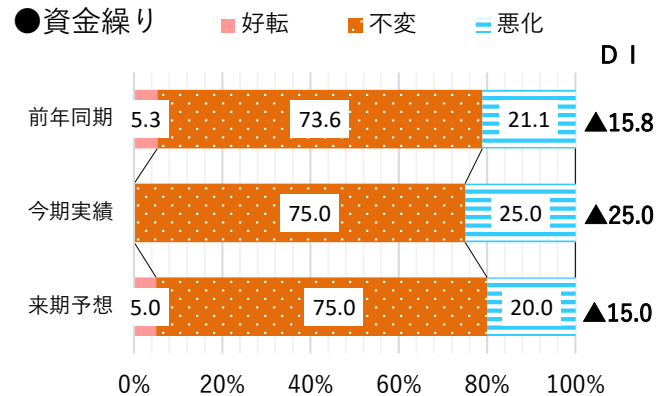
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

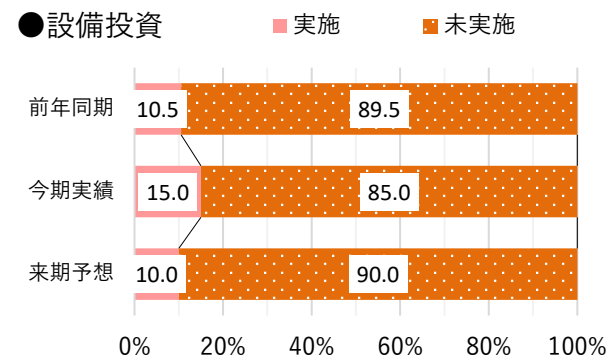
今期の資金繰りDIは▲25.0で、前年同期と比べ9.2ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



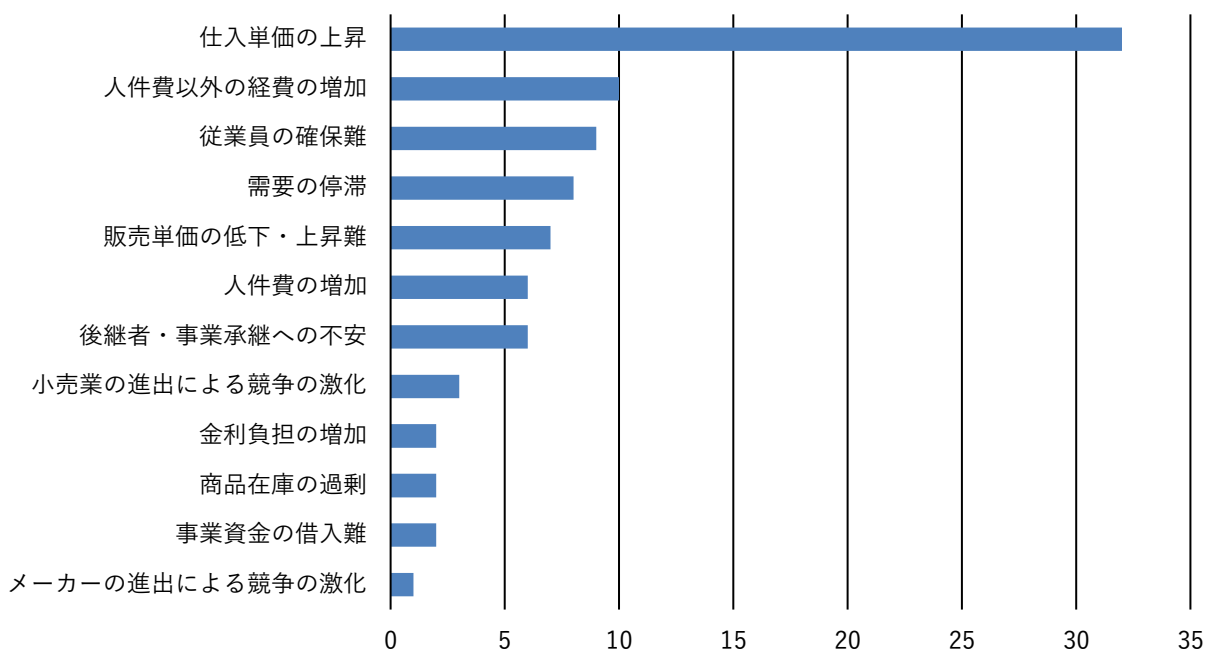
設備投資を実施した企業の割合は15.0%で、前年同期と比べ4.5%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「付帯施設」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は10.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原油価格が高止まりのため売上は増加したが、採算は悪化した。買い控えも起きている。(石油卸売)
- 仕入価格が上昇したが、価格転嫁がうまく進んでいない。(建築材料卸売)
- ディーラーから購入していた部品の割引率が低下し、苦勞している。(自動車部品卸売)
- 販売単価の上昇に比例もしくはそれ以上に販売数量が減少した。(鉱物・金属材料卸売)
- 売上は前年同期比で2倍に増加した。仕入価格は全体的に上昇傾向にある。(食料・飲料卸売)
- 仕入単価上昇のため、業況は悪化した。(食料・飲料卸売)
- 仕入価格が上昇傾向にある。(事務用品卸売)
- メーカーの販売価格の値上げが止まらない。(包装資材卸売)
- 値上げが相次ぎ売上額は増加した。利益率が追い付くように頑張っている。(塗料卸売)

[来期の業況について]

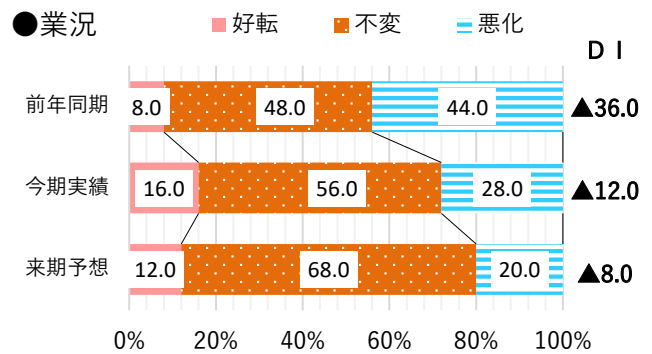
- 原油価格は今期並みだと思われる。業況は引き続き悪化を見込む。(石油卸売)
- 引き続き仕入価格の上昇を予想する。(建築材料卸売)
- 仕入価格や部品の生産状況の見通しが立たない。(自動車部品卸売)
- 仕入単価の上昇が予想される。苦戦は避けられないと思う。(鉱物・金属材料卸売)
- 引き続き好調を見込む。人材確保に努める。(食料・飲料卸売)
- 仕入価格の上昇に合わせ、販売価格をどこまで引き上げられるかに左右される。(事務用品)
- メーカーの値上げが続くと予想する。(包装資材)
- 10月上旬まで値上げが予想される、うまく価格転嫁したい。(塗料販売)

小 売 業

業況、売上、採算

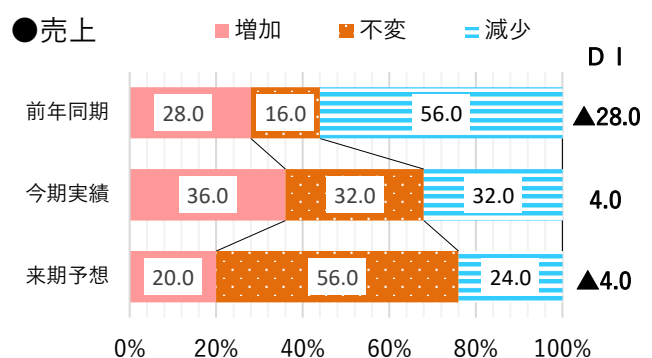
今期(2022.7~9)の業況判断DIは▲12.0で、前年同期(2021.7~9)と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期(2022.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



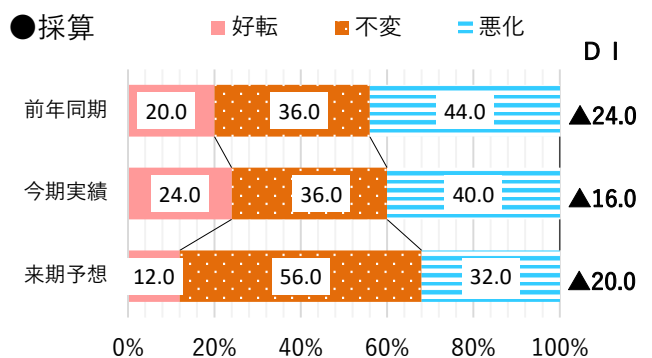
今期の売上高DIは4.0で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

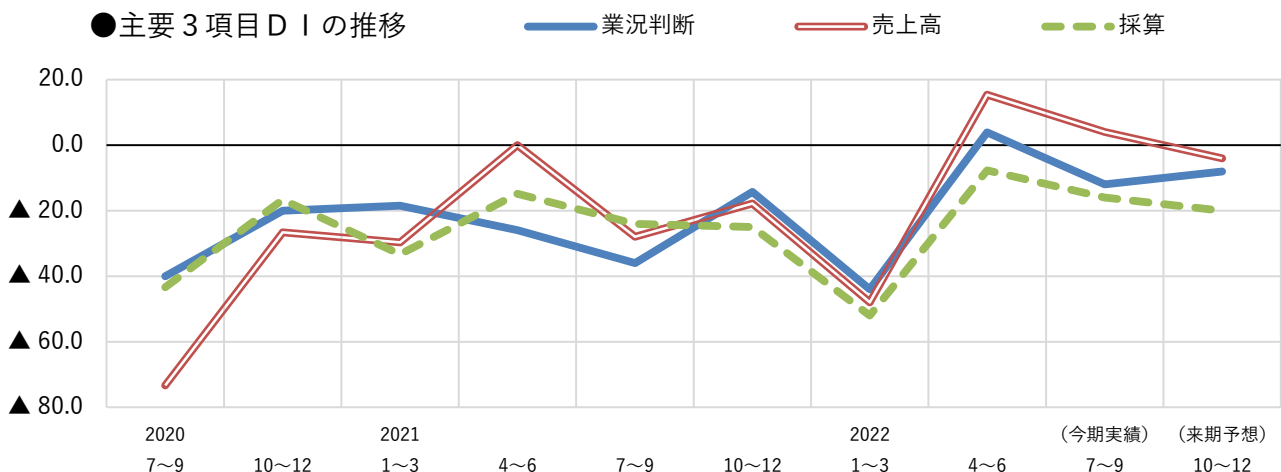


今期の採算DIは▲16.0で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



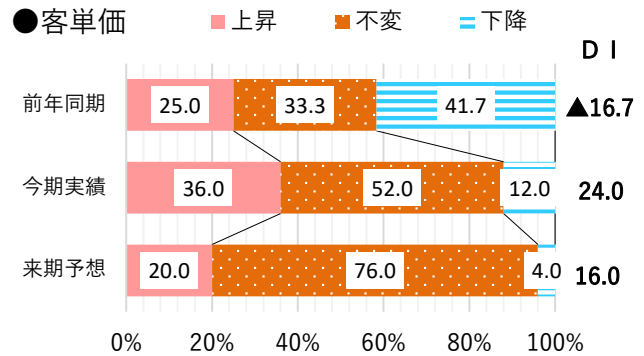
●主要3項目D Iの推移



客単価、客数

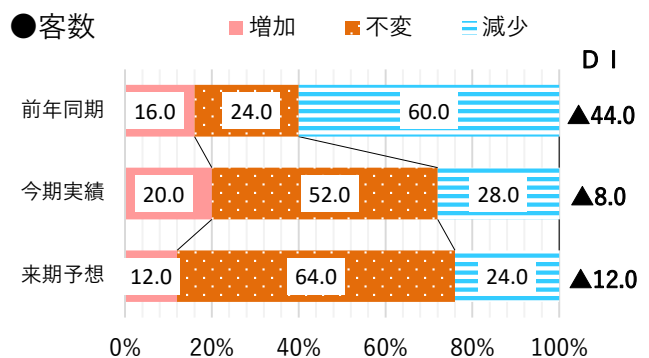
今期の客単価DIは24.0で、前年同期と比べ40.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の客数DIは▲8.0で、前年同期と比べ36.0ポイントと大幅に上昇しました。

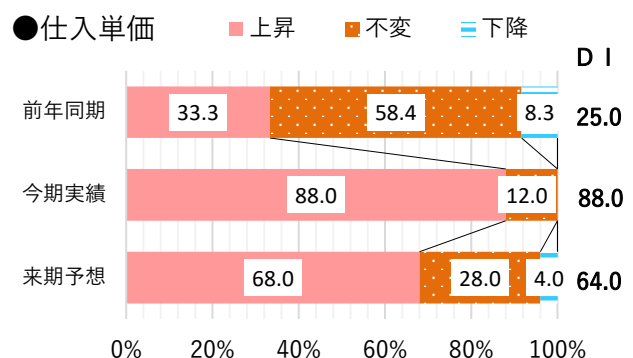
来期は、客数の減少傾向が続くと予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

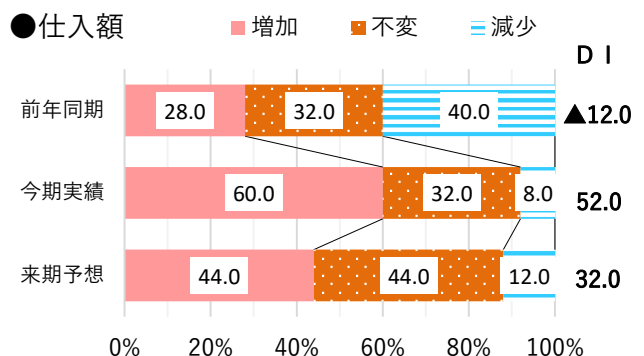
今期の仕入単価DIは88.0で、前年同期と比べ63.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



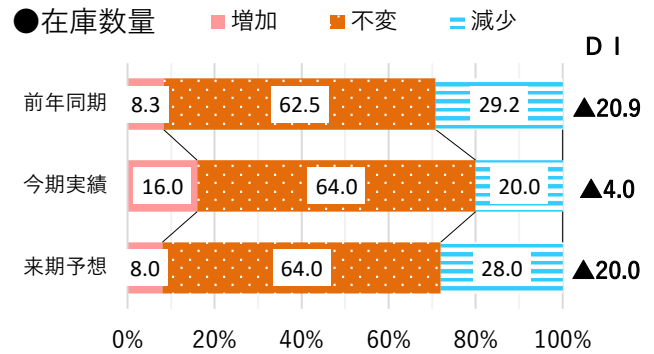
今期の仕入額DIは52.0で、前年同期と比べ64.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲4.0で、前年同期と比べ16.9ポイント上昇しました。

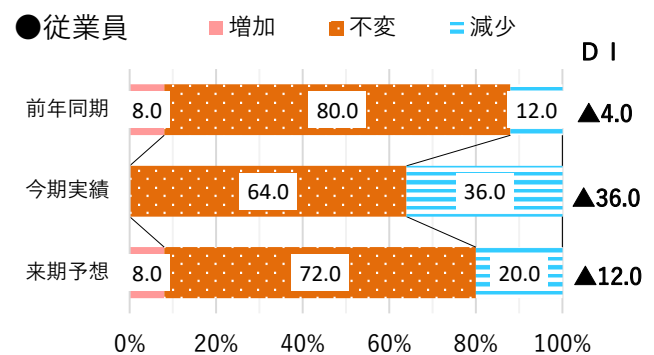
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



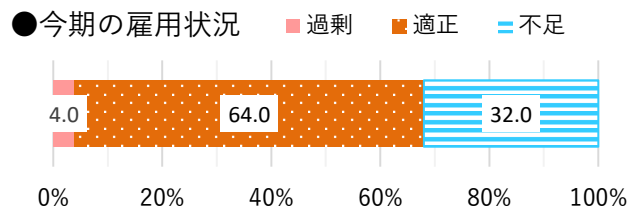
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲36.0で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は4.0%、適正であると回答した企業の割合は64.0%、不足していると回答した企業の割合は32.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の48.0%を占めています。

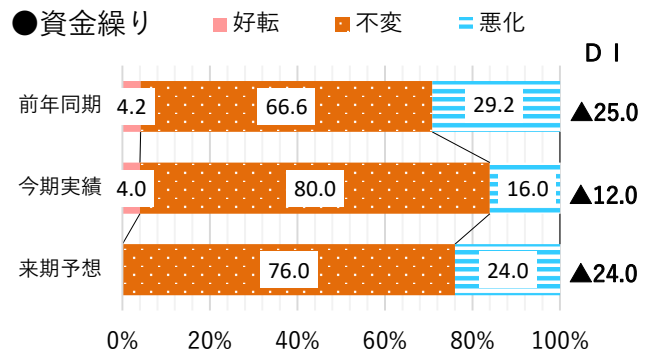
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	4

資金繰り、設備投資

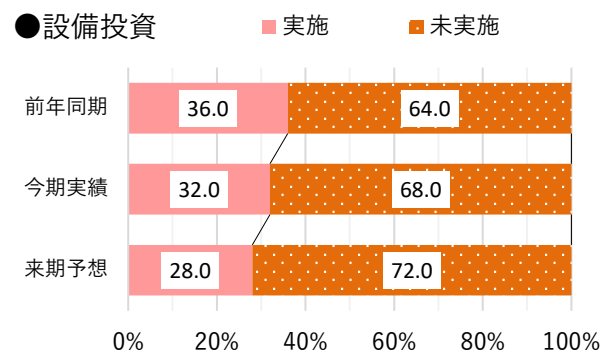
今期の資金繰りDIは▲12.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの減少傾向が強まると予想しています。



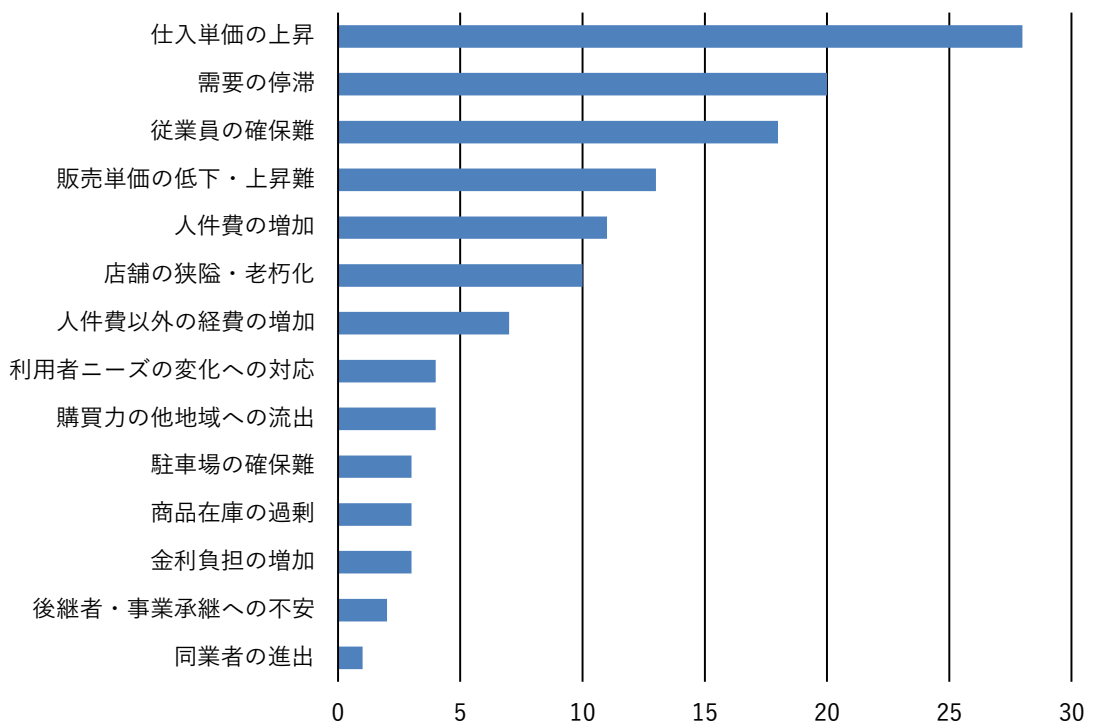
設備投資を実施した企業の割合は32.0%で、前年同期と比べ4.0%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、
「付帯施設」(同位)、2位が「店舗」、
「販売設備」、「その他」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は28.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 外出制限がなかったため、業況が好転した。(食料品小売)
- 売上は増加したが、仕入額も増加しており採算は悪化した。(食肉小売)
- コロナ禍での行動制限がないため客数は増加したが、原材料、包装資材、燃料費等が上昇し、利益が思うように上がらない状態が続いている。(菓子製造小売)
- コロナ禍の影響で業況の悪化が続く。たまに高額な品が売れるが、売上は例年通り～少し減少で推移している。客数は少しずつ減少している。今年はメーカーが2～3度値上げしており、仕入価格が増加し、在庫は減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 売上の減少に歯止めがかからない。資金繰りにも苦労しているので、売上の回復に向けて大胆に動けず、悪循環が起きている。経費に占める人件費のウェイトが大きくなっている。(衣服・身の回り品小売)
- 市場で商品を販売しているが、量販店と比較した集客力の弱さを感じている。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入価格が上昇したが、売上額から見て気になる程ではなかった。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの影響で業況が悪化した。(自動車小売)
- 物価上昇に伴う買い控えにより売上が減少傾向にあったが、9月からは値上がり前に商品を購入しようとするお客様が増加した。(家電量販店)
- 昨年と比べて暑い日が少なく、客数が減少した。(家電量販店)
- コロナ禍に伴う行動規制がないことから、外食、観光へ客足が向いており、売上が減少した。最低賃金の引き上げに伴い、パートタイマーの出勤時間の管理が負担となっている。(大型店)
- 新型コロナウイルスの流行により公共交通機関の利用者が減少し、客数と売上が減少した。(大型店)
- 店舗の改装によって売上は増加したが、電気料金と燃料費の上昇により利益は伸びなかった。(大型店)
- 売上は前年同期の実績を多少上回った。(コンビニ)
- コロナ禍が落ち着きつつあるため、客数と売上が増加した。(ドラッグストア)

[来期の業況について]

- 食料需要が高まり、仕入単価が上昇すると思う。外出や旅行はより一層活発になるだろう。小樽のブランド力の更なる向上に期待する。(食料品小売)
- 大きな変化はないと思われるが、賃金の引き上げに伴い採算は一層悪化する見込みだ。(食肉小売)
- 価格転嫁が思うに任せない中で最低賃金の引き上げもあり、難しい状況が続く。(菓子製造小売)
- これ以上の業況悪化を防ぐため、コストのかからない事業を予定している。長期的に少しずつ回復に向かってほしい。今期で大幅に値上げした商品もあり、厳しい状況が続くと思う。(衣服・身の回り品小売)
- 急激な好転は難しいので、経費を減らし、新規ニーズを掘り起こしたい。(衣服・身の回り品小売)
- 売上の増加を見込むが、業況は少しずつ悪化に向かっていくと思う。(衣服・身の回り品小売)
- 今期同様、仕入価格の上昇を見込む。(衣服・身の回り品小売)
- 新車生産の回復の兆しがあるとの話は聞くが、あくまで噂なので、好転は見込めない。(自動車小売)
- 新車の生産遅れによる売上の低迷や、中古車価格の値上がりが予想される。(自動車小売)
- 全く見通しが立たない。(自動車小売)
- 従業員の高齢化に伴い退職者が増えているので、人材確保に取り組む。(大型店)
- 光熱費の上昇による利益の減少が続くと思われる。(大型店)
- コロナ禍の状況次第だが、業況の好転傾向が続くと予想する。(コンビニ)
- 地元客に加え、インバウンドの増加を期待したい。(ドラッグストア)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは23.5で、前年同期（2021.7～9）と比べ51.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

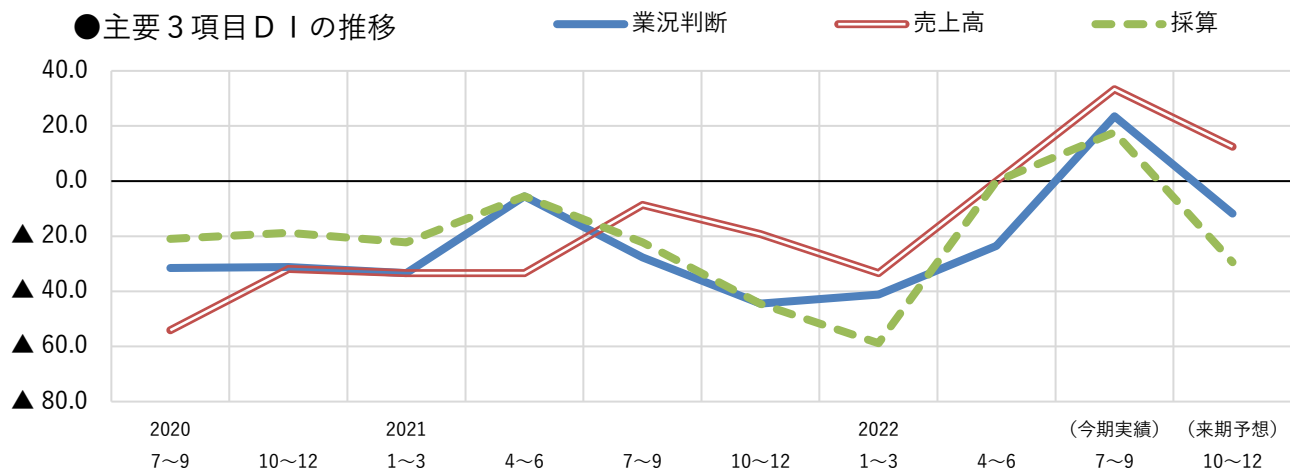
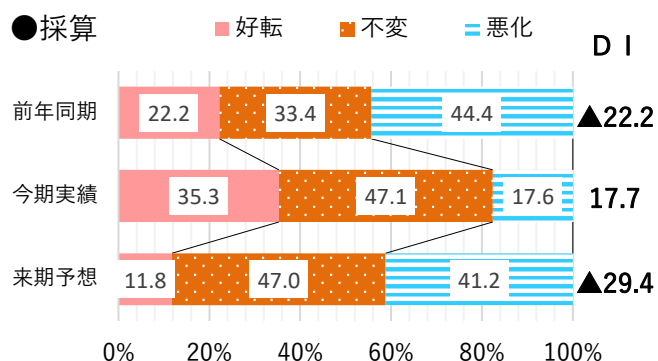
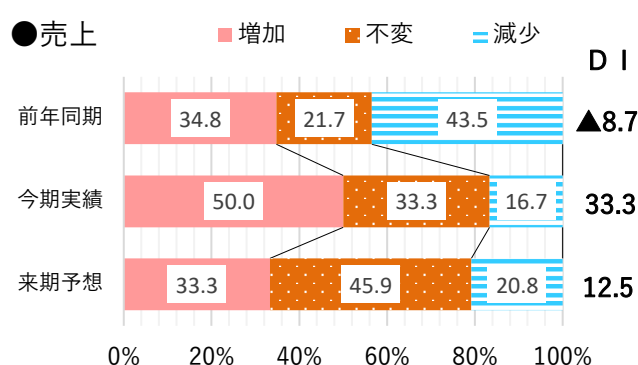
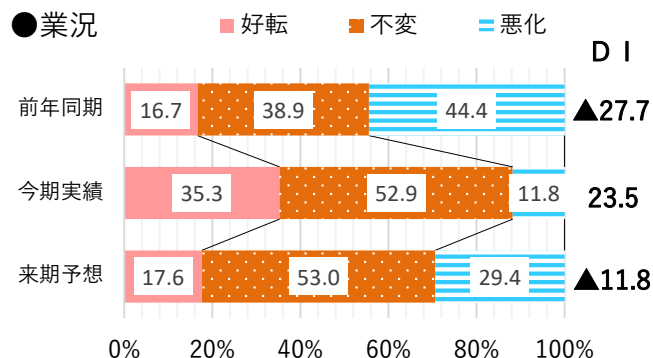
来期（2022.10～12）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。

今期の売上高DIは33.3で、前年同期と比べ42.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは17.7で、前年同期と比べ39.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

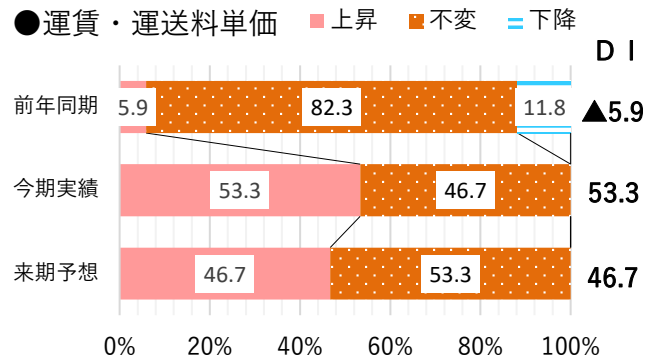
来期は、採算が大幅に悪化しマイナスに転じると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

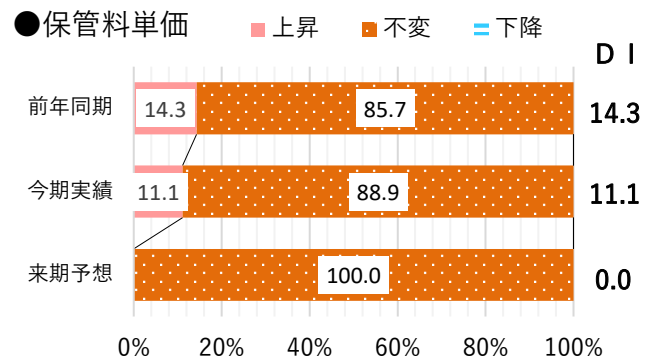
今期の運賃・運送料単価DIは53.3で、前年同期と比べ59.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

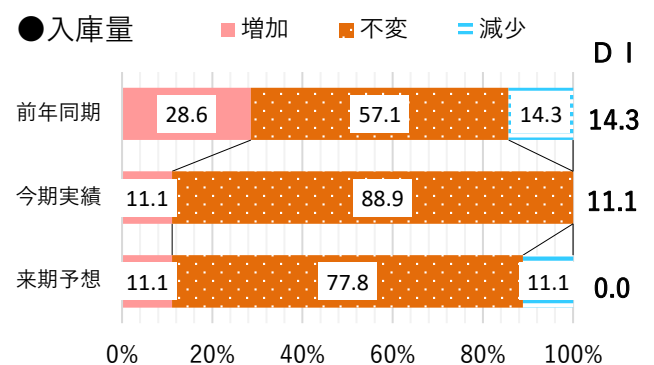
来期は、保管料単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

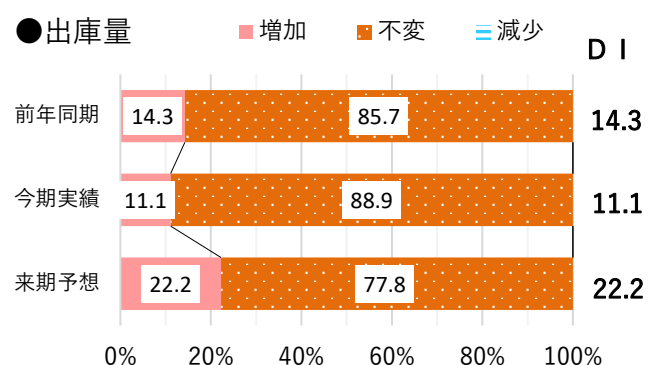
今期の入庫量DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、入庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



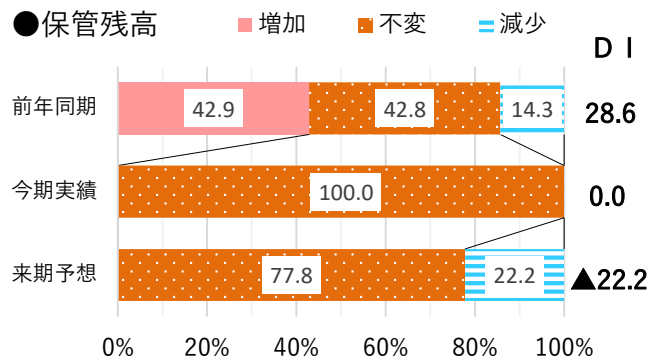
今期の出庫量DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ28.6ポイント低下しました。

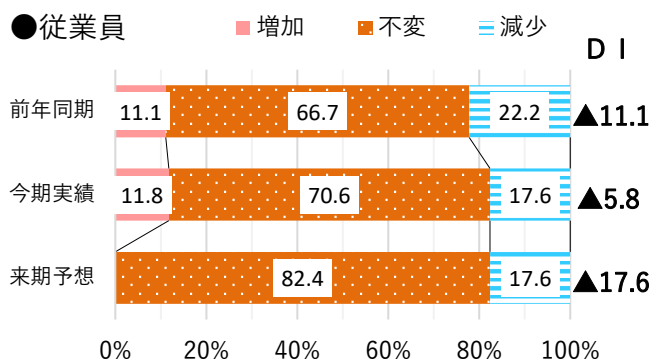
来期は、保管残高がマイナスに転じると予想しています。



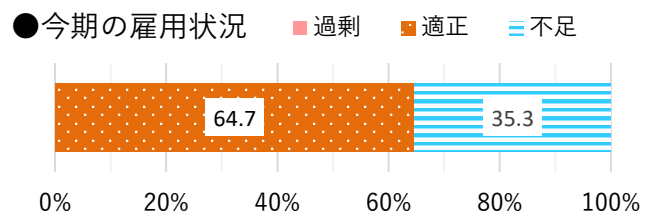
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.8で、前年同期と比べ5.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は35.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の58.8%を占めています。

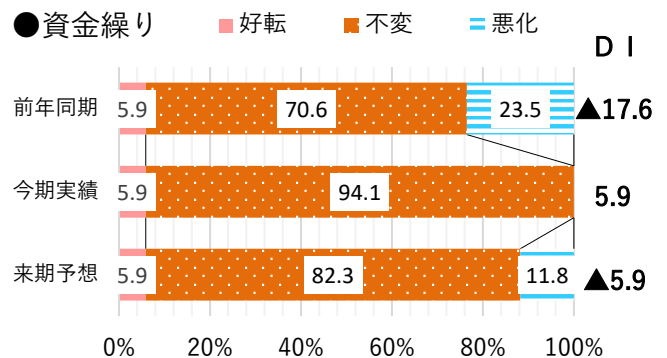
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

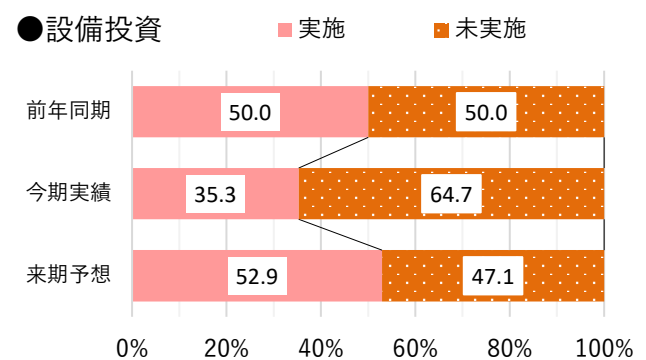
今期の資金繰りDIは5.9で、前年同期と比べ23.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



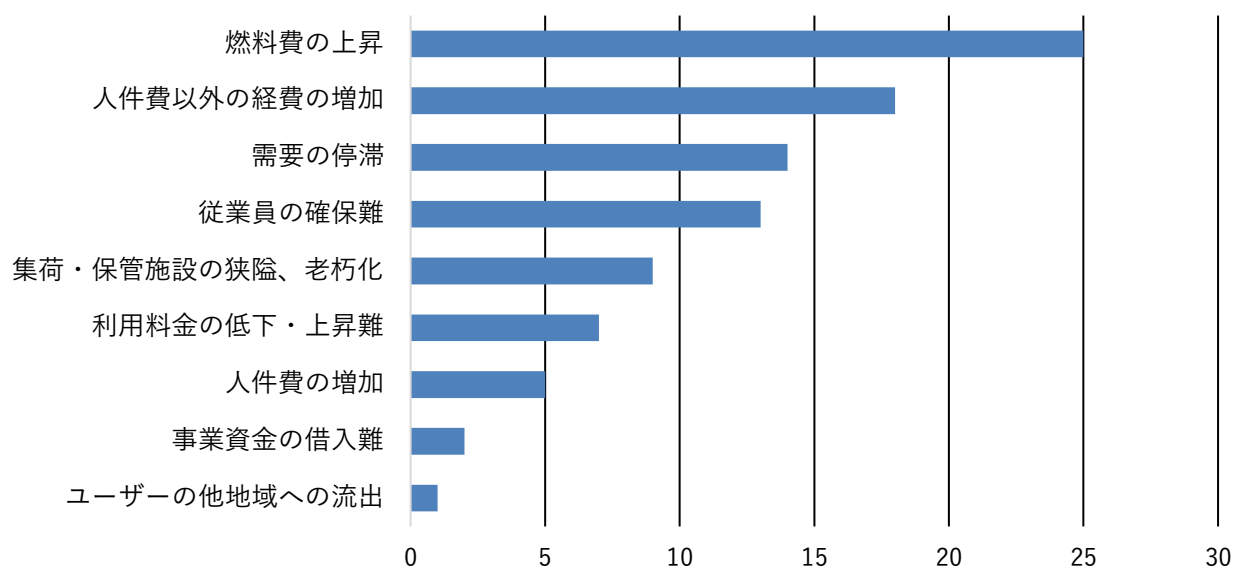
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ14.7ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」、「O A 機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は52.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上が減少し、燃料費の高騰で減益となった。現場、事務ともに人員が不足している。(道路貨物運送)
- 運賃の引き上げ難、燃料費の高止まり、自動車部品の大幅な値上げで業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 運送単価を引き上げたことで、売上が増加した。(道路貨物運送)
- 貨物が大幅に減少し、業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 運賃を引き上げた。(道路貨物運送)
- 行動制限がないため、売上は増加しているが、最低賃金や燃料費、タイヤの購入費用等で想定以上のコストがかかった。(道路旅客運送)
- 運賃を引き上げ、売上は多少増加したが、人員の減少と燃料費の高騰で厳しい状況だ。(道路旅客運送)
- 前年同期比の売上額はほぼ横ばいだった。(倉庫)
- ロシアのウクライナ侵攻により貨物の減少を予想していたが、昨年同様の荷動きだった。(港湾運送)
- 外出規制のない夏休み、お盆休みだったため、旅客はコロナ禍前の7~8割程度の水準まで回復した。燃料価格高騰の影響で運賃を引き上げた。(水運)

[来期の業況について]

- 運送料金改定の交渉がまとまれば、業況は好転すると思われる。(道路貨物運送)
- 運送単価の引き上げは予定していない。(道路貨物運送)
- 大きな変化はないと思う。(道路貨物運送)
- 円安と物価上昇がどこまで進行するのか分からない。従業員数を維持できるか不安だ。(道路旅客運送)
- 売上は引き続き伸びると思うが、コストの増加傾向も変わらないと思う。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少に伴い、売上も減少すると思われる。(倉庫)
- 外出制限がなければ、旅客部門の増収が見込める。昨年は水不足で農作物の収穫量が少なかったが、今期は農作物が順調に生育しているので、貨物、倉庫部門の増収も見込める。(水運)

観光業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは64.7で、前年同期（2021.7～9）と比べ117.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

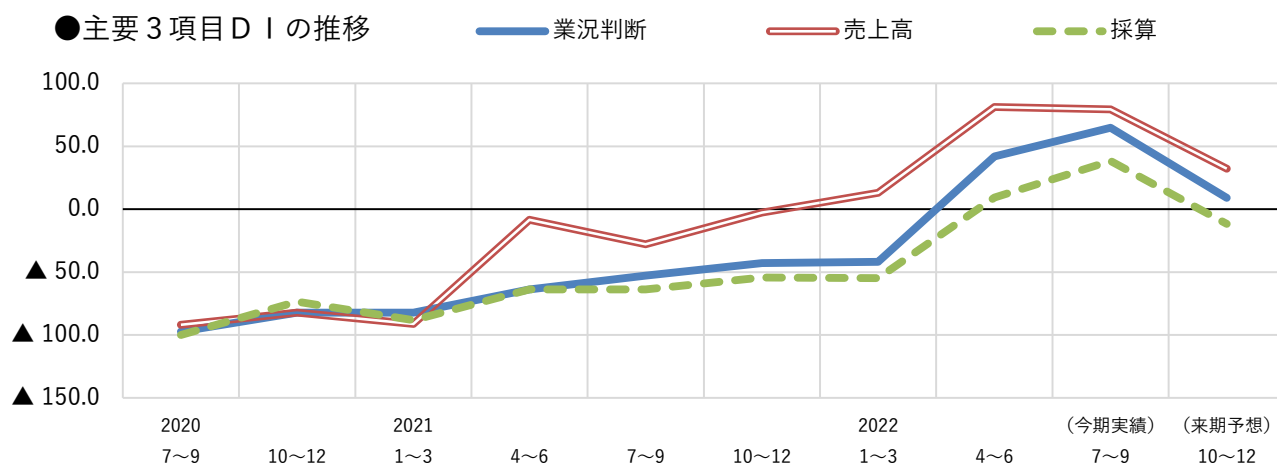
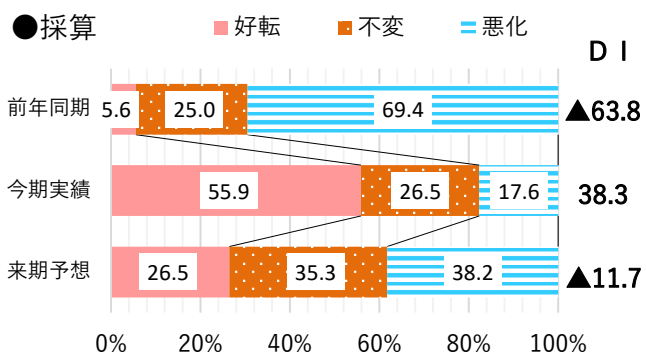
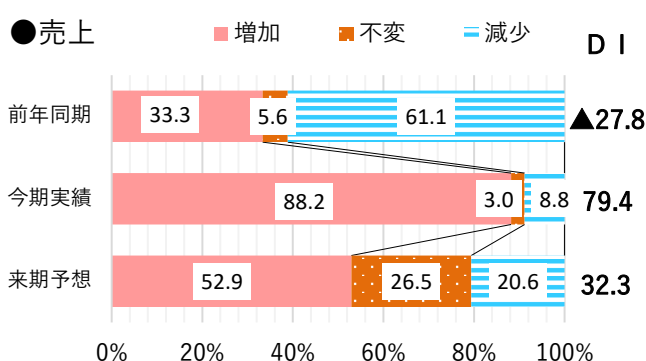
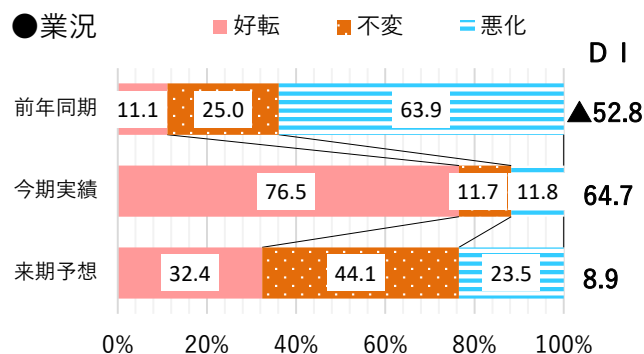
来期（2022.10～12）は、業況の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは79.4で、前年同期と比べ107.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは38.3で、前年同期と比べ102.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

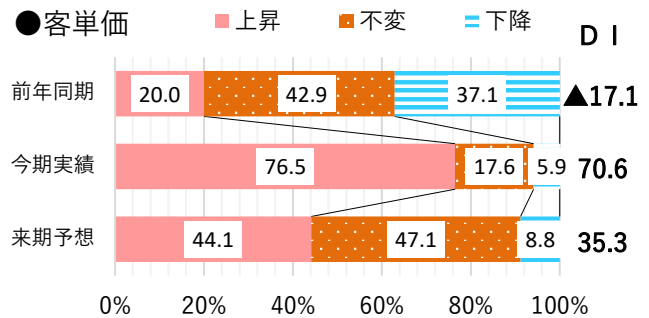
来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

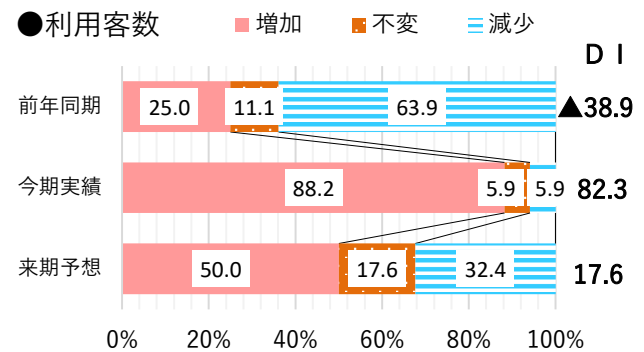
今期の客単価DIは70.6で、前年同期と比べ87.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



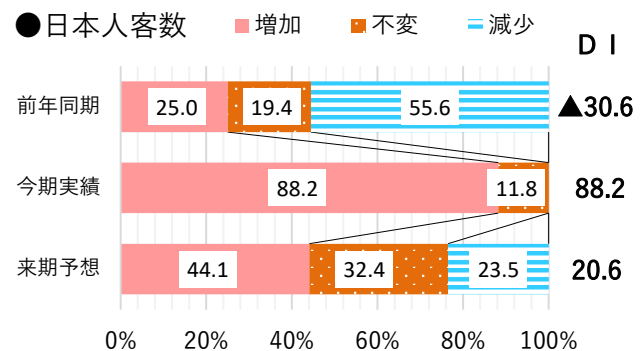
今期の利用客数DIは82.3で、前年同期と比べ121.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



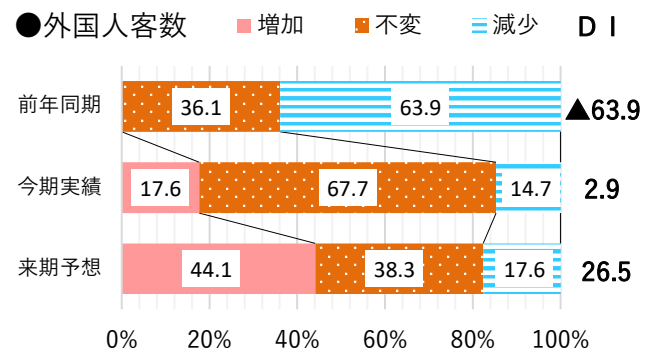
今期の日本人客数DIは82.2で、前年同期と比べ118.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲2.9で、前年同期と比べ66.8ポイントと大幅に上昇しました。

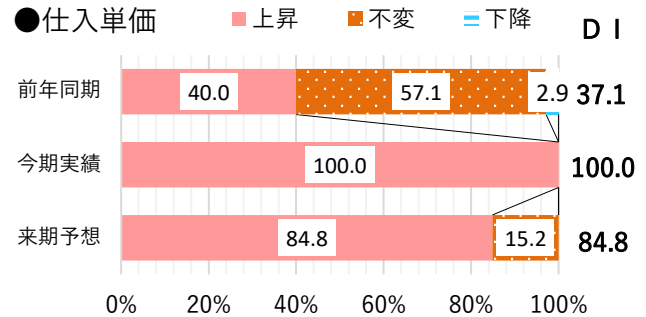
来期は、外国人客数の増加傾向が強まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ62.9ポイントと大幅に上昇しました。

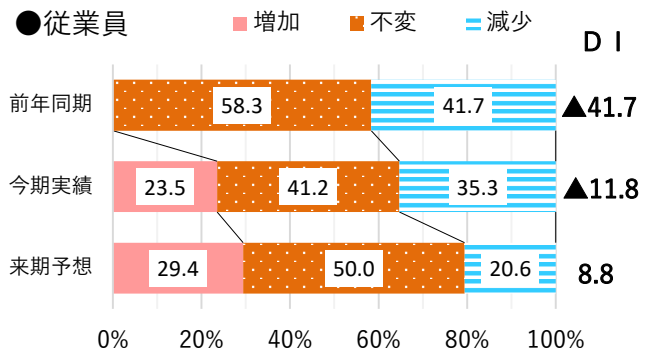
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



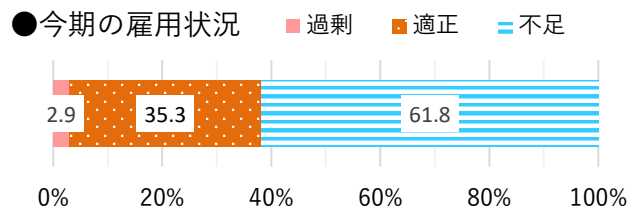
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲11.8で、前年同期と比べ29.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.9%、適正であると回答した企業の割合は35.3%、不足していると回答した企業の割合は61.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、観光業全体の32.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	11

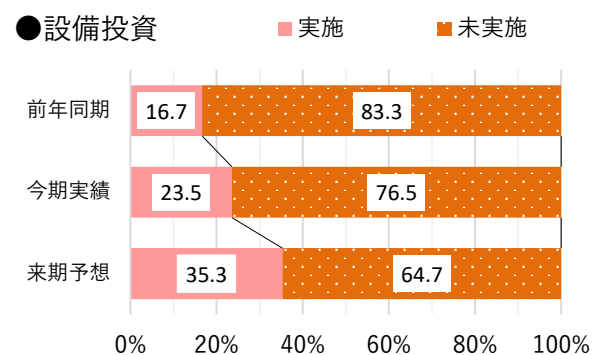
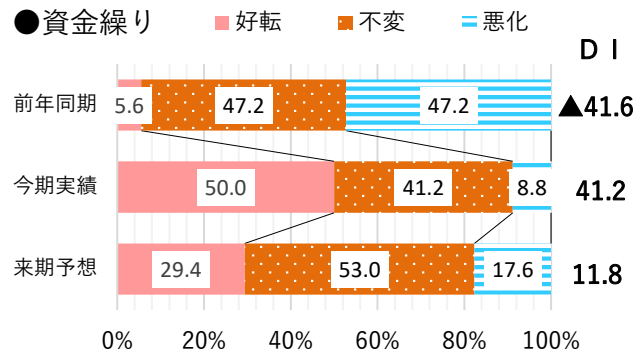
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは41.2で、前年同期と比べ82.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は23.5%で、前年同期と比べて6.8%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「付帯施設」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、増加を予想しています。

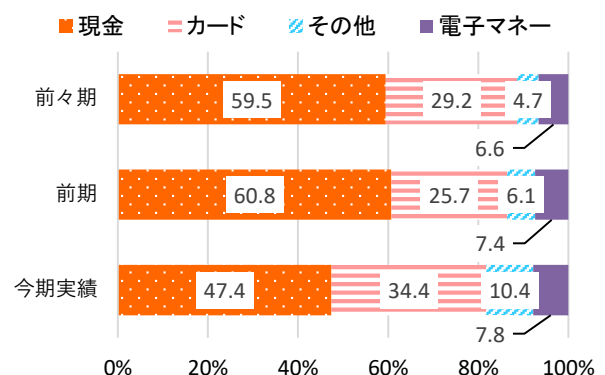


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で47.4%、2位がカードで34.4%、3位がその他で10.4%、4位が電子マネーで7.8%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、クーポン券、プレミアム付き商品券、掛売りです。

●今期利用客の決済方法(%)

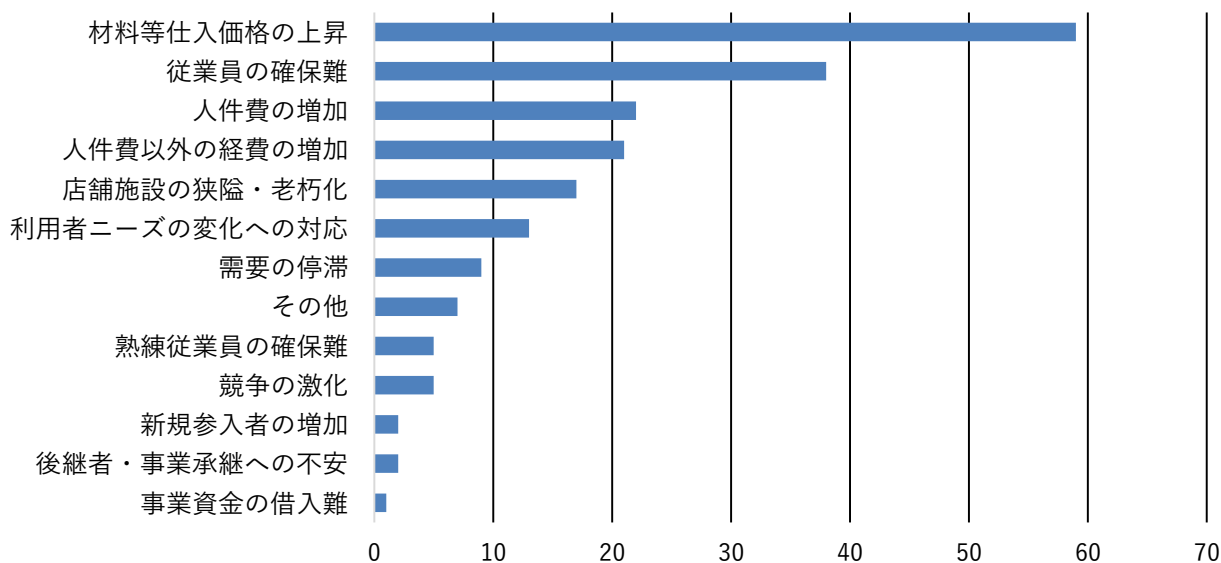


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は72.9%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- オミクロン株の感染者が増加していたが、客数は増加した。8月の伸びが特に大きかった。(ホテル)
- 観光客は戻ってきたが、食材や重油の価格、電気料金等のコスト高で厳しい状況にある。(ホテル)
- 国内需要が回復した。7月以降は仕入価格の上昇や外注費用の増加が続いている。(ホテル)
- 仕入単価の上昇により、大変厳しい状況にある。(ホテル)
- 観光需要が回復に向かっている。(ホテル)
- どうみん割の利用者によって売上が増加した。(コテージ・ペンション)
- 人材確保に苦労している。(コテージ・ペンション)
- 人の動きが活発になり、業況が回復した。新千歳空港と仁川空港の直行便が再開した影響は特に大きく、売上が大幅に増加したが、度重なる仕入価格の高騰が利益率を悪化させた。(飲食店)
- コロナ禍の行動制限がなかったため、道内客を中心に国内観光客が増加し、売上也増加した。観光事業支援のためのクーポン券などの利用者が多く、随分と助けられた。(飲食店)
- 7月はコロナ禍による休業期間があり、売上が伸びなかった。8月は過去10年で最高の売上で、9月も好調だった。(飲食店)
- 昨年同期比で客数が増加した。春に実施した値上げの効果もあり、客単価も上昇した。(飲食店)
- 外出規制がないため、お盆の来客や修学旅行生の利用が多く好調だった。(飲食店)
- 仕入価格の上昇が止まらず、苦しい状況が続いている。(飲食店)
- 7、8月は観光客が増加したため、売上が増加した。(飲食店)
- あらゆる品の仕入価格の高騰や人手不足が課題だ。(飲食店)
- 観光シーズンで売上が伸びた。(飲食店)
- 客層は日本人観光客が主で、客数はコロナ禍前の水準に回復しつつある。(土産品)
- 仕入単価が上昇し、採算が悪化した。(土産品)
- 従業員が不足している。(土産品)
- 道内外の観光客のレジャー利用が好調で、昨年同期の倍近くの売上だった。お祭りやイベント関係の需要もあり、利用客数はコロナ前の水準まで回復してきた。(レンタカー)

- 新型コロナウイルスの感染者数減少に伴い、前年を大きく上回る割合で利用者数が増加していたが、第7波で新規感染者数が激増した頃から増加が鈍くなった。（社会教育）
- 利用客数と売上額は前年同期比で3倍程度まで増加したが、コロナ禍前の2019年度同期の実績と比べると、8割弱までの回復にとどまっている。（水運業）
- 新型コロナウイルス第7波により感染者数は増加したが、行動制限がないことで国内観光客は増えた。仕入価格の高騰で収益は悪化した。（船舶賃渡業）
- 夏の観光シーズンに外出規制等がなく、客数が増えた。新規アクティビティも好調だった。（娯楽業）
- 天候不順や仕入単価上昇等の影響で、業況が悪化している。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 閑散期だが11月に新施設が完成するので、それに見合った客数の増加を期待する。（ホテル）
- インバウンドの増加を見込む。仕入価格の増加傾向や、従業員不足が懸念される。（ホテル）
- インバウンドの増加に期待できるが、コストの上昇や人材確保に悩みそうだ。（ホテル）
- 利用者数の増加が見込まれるが、従業員不足と原価上昇が懸念される。（ホテル）
- 離職や採用難により、従業員が不足すると思われる。（ホテル）
- 小樽の宿泊客誘客支援策（とまっ得おたる）による客数増加を見込む。（コテージ・ペンション）
- 施設工事に伴う一部休業を予定している。（コテージ・ペンション）
- 引き続き国内観光客が回復し、外国人観光客も増加するため、業況の好転傾向が続くと見込んでいるが、コロナ禍前と比較して80%の売上、50%程度の利益にとどまると思われる。主要原材料の仕入価格がさらに上昇する可能性が高く、利益の減少を懸念しているが、価格転嫁は難しいと思う。（飲食店）
- 10月はイベントがあるため、売上が伸びると思う。外国人観光客の回復を見込む。人手不足と外国人客に対応するため、翻訳機能付きのセルフオーダーのシステム導入を検討している。（飲食店）
- 売上と客数の増加を見込むが、原材料価格の高騰と最低賃金の上昇により経費が増加するため、大きな回復は難しいと思われる。（飲食店）
- 原材料の仕入価格が高騰しており、採算が悪化すると思われる。（飲食店）
- 円安による材料費や包装資材の大幅に値上がり懸念される。（飲食店）
- 観光シーズンが終わるので、売上は減少すると思われる。（飲食店）
- 引き続き観光客の増加を期待する。（飲食店）
- 仕入価格の上昇が続くと予想する。（飲食店）
- 値上げを予定している。（飲食店）
- 円安で仕入価格の高騰が続くと思われる。（土産品）
- 仕入単価の上昇傾向が続くと思われる。（土産品）
- 外国人観光客の回復に期待する。（土産品）
- 冬は需要が減少するので、前年同期比の売上は増加するが、今期比では減少を見込む。（レンタカー）
- 今後の感染状況や、新型コロナウイルスの流行状況により利用者数が大きく増減すると思われる。入国制限の緩和等、業績を左右する要因を注視したい。（社会教育）
- 今期が繁忙期だったため、利用客数、売上ともに減少が見込まれる。（水運業）
- 入国者数の上限緩和によりインバウンドの増加が見込まれ、新型コロナウイルスの流行も落ち着くと予想されるため、業況が好転すると思われる。（船舶賃渡業）
- 夏の観光シーズンと冬のスキーシーズンの端境期のため、売上は減少を見込む。（娯楽業）
- 今期から好転する要素がないため、業況は悪化または不変だと思われる。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは15.4で、前年同期（2021.7～9）と比べ45.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

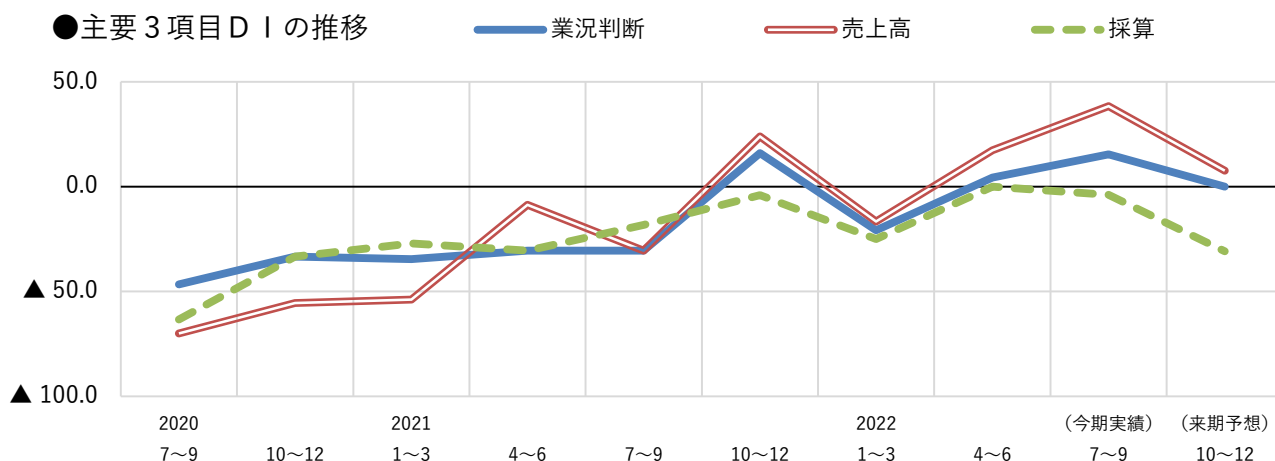
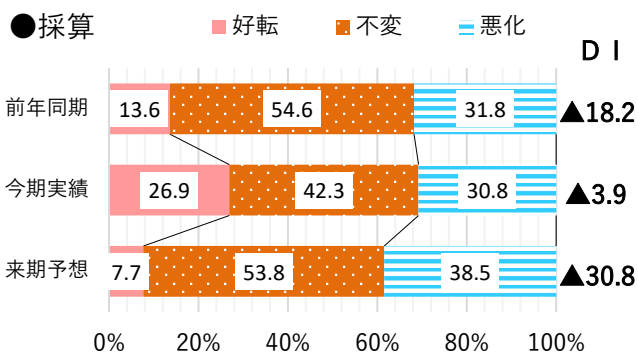
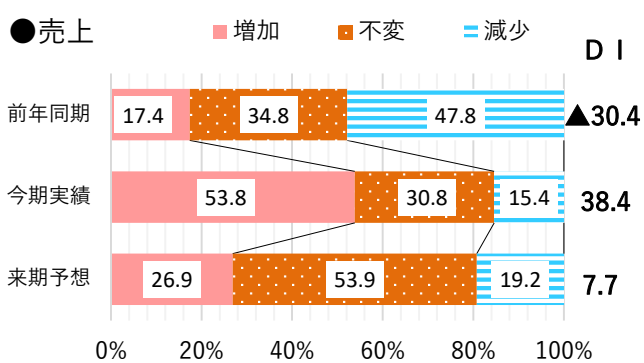
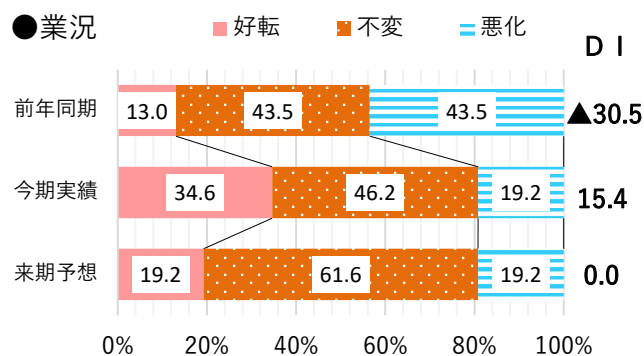
来期（2022.10～12）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは38.4で、前年同期と比べ68.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲3.9で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

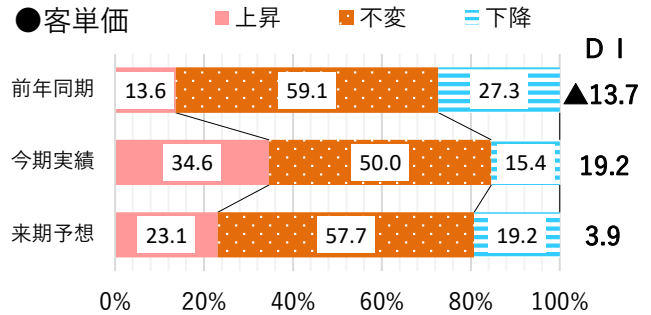
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

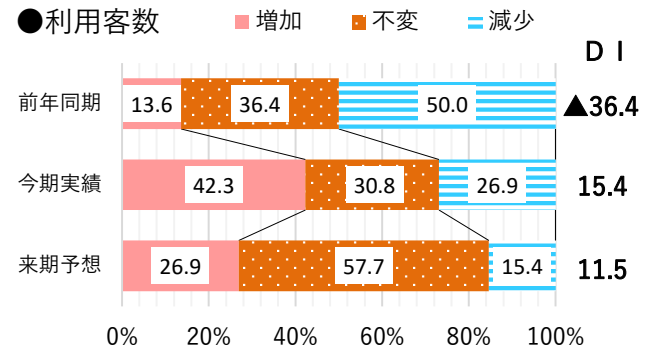
今期の客単価DIは19.2で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



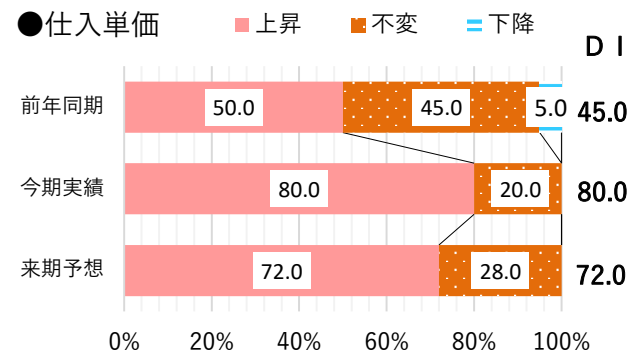
今期の利用客数DIは15.4で、前年同期と比べ51.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ35.0ポイントと大幅に上昇しました。

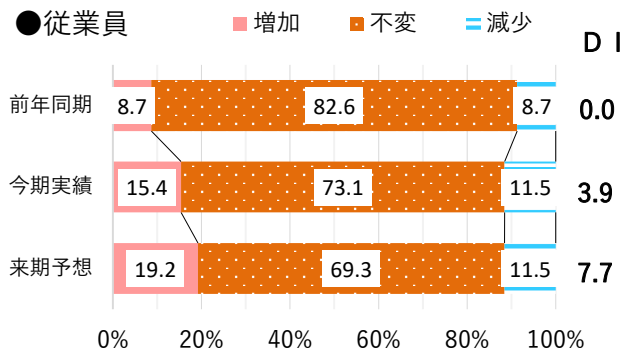
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは3.9で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が強まると予想しています。

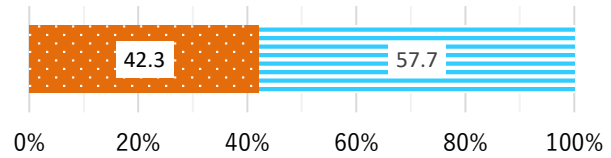


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.3%、不足していると回答した企業の割合は57.7%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、サービス業全体の38.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



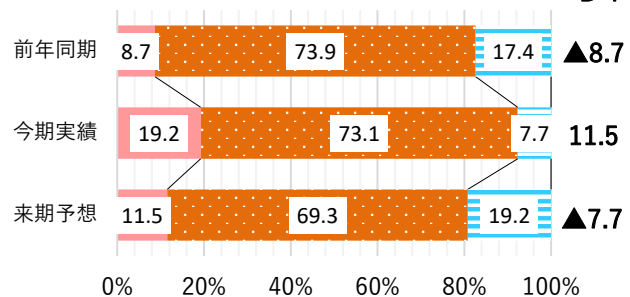
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは11.5で、前年同期と比べ20.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。

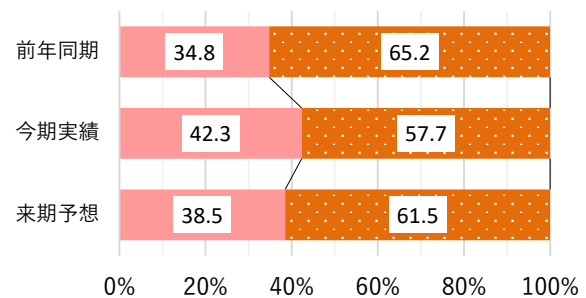
●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化



設備投資を実施した企業の割合は42.3%で、前年同期と比べ7.5%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「サービス設備」の順です。

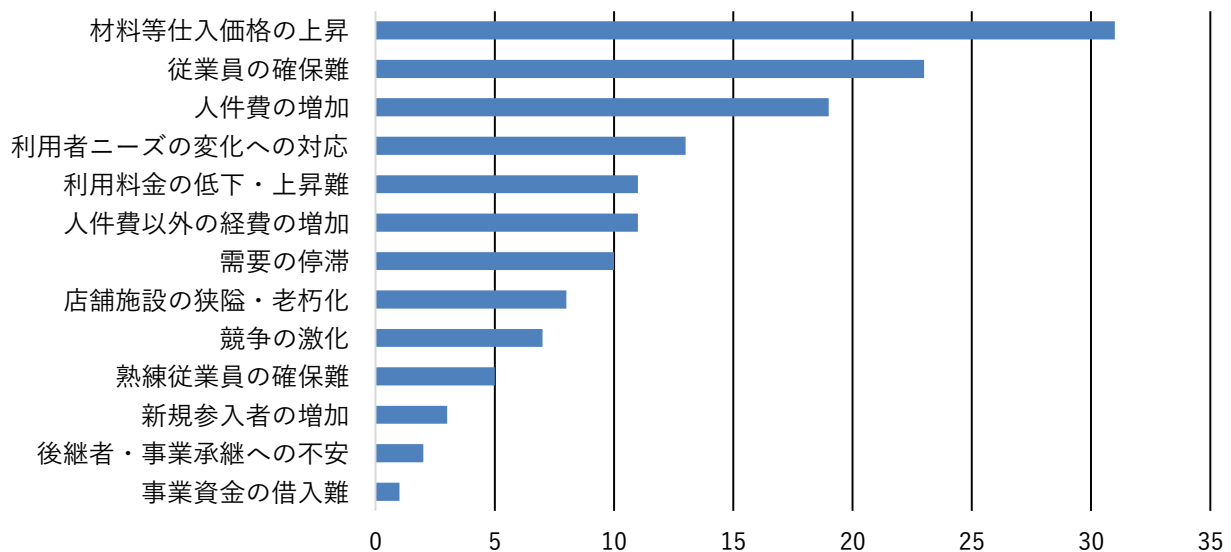
来期に設備投資を計画している企業の割合は38.5%で、減少を予想しています。

●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 行動制限がなかったため、予想以上に好調だった。観光客の利用が落ち着いて来た際に、地元客の利用が回復するのか不安だ。パート従業員を募集しているが応募がないので困っている。(飲食店)
- コロナ禍、円安等でお客様の利用状況が変化していると思う。状況の変化に対応できない小規模事業者は一層苦境に立たされると思う。(飲食店)
- 観光客の増加により売上は増加したが、材料仕入単価と光熱費等経費も増加したため、採算は可もなく不可もない。(飲食店)
- 人材確保に苦労している。(飲食店)
- 昨年度はワクチンの集団接種業務等、特需のような業務により売上が増加したが、今年度はこうした業務がなく売上が減少した。旅行業は客単価が下降したものの、好転した。(旅行代理店)
- 厳しい状況に変わりが無いが、売上は多少好転して明るい兆しが見えてきた。(出版業)
- 利用客数は変わらなかったが、物価高騰のため、オプションの注文を抑える利用客が増え、客単価が上がらなかった。高騰する仕入価格や光熱費をはじめ、全ての経費が利益を減らしている。(美容業)
- 売上は増加したが、原材料価格等の上昇により昨年と同程度の利益だった。(ビルメンテナンス)
- 新型コロナウイルス流行の影響はほぼなくなった。(スポーツ施設)
- 利用客数が戻りつつあるが、材料仕入額が増加した。業況はやや悪化した。(写真業)
- 店頭利用客が減少した。原材料価格と公共料金の値上げが厳しい。(写真業)
- 技能教授業部門は、十分な生徒を確保できている。販売部門は中古品の相場が上がり、仕入が難しい。(教養・技能教授業)
- 医療関連事業を展開していることもあり、コロナ禍でも業績は伸びている。仕入先のメーカーから、仕入価格の値上げ受け入れ要請を多数受けている。工場の燃料費は高止まり状況にある。人材は充足している部署と不足している部署があり、営業人材が特に不足している。(各種物品賃貸業)

[来期の業況について]

- 10月以降も仕入価格の上昇が予想されており、価格転嫁は避けられないと思う。パートやアルバイトの扶養控除の制度は撤廃し、稼ぎたい人は一層働いて稼げるようになれば良いと思う。(飲食店)

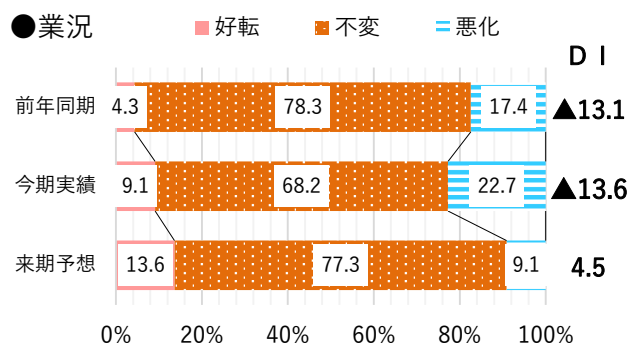
- コロナ禍や戦争、円安等の社会状況の変化に対応できなければ業況は悪化する。（飲食店）
- 主力の団体旅行が伸びる見込みのため、売上の増加を期待する。（旅行代理店）
- 新しい業態を模索しており、進捗があれば業況は好転に向かうと思う。（出版業）
- 客数は年末に向けて増える見込みだ。仕入費用はメーカーの割引制度を利用して抑えたい。（美容業）
- 売上の増加を見込むが、原材料費等の上昇により利益は昨年と変わらないと思う。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金や諸経費の上昇により、業績の悪化が見込まれる。（ビルメンテナンス）
- 今後も材料の値上げ等が見込まれるため、厳しい状況が続く。（写真業）
- 技能教授業部門の生徒数は少しずつ減っていくと思うが、その他事業を拡大し、売上を維持したい。
（教養・技能教授業）
- 10月の最低賃金引き上げに合わせ、全従業員の給与見直しを予定している。（廃棄物処理業）
- 燃料費、電気代等の高騰を懸念している。請負業務など労働集約型事業も展開しているため、積極的に人材を確保していきたい。（各種物品賃貸業）

建設業

業況、売上、採算

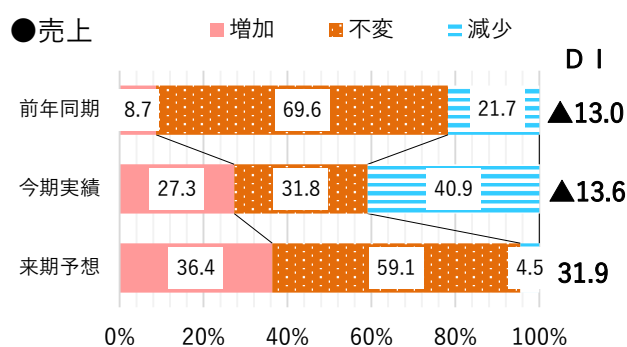
今期（2022.7～9）の業況判断DIは▲13.6で、前年同期(2021.7～9)と比べ0.5ポイント低下しました。

来期（2022.10～12）は、業況がプラスに転じると予想しています。



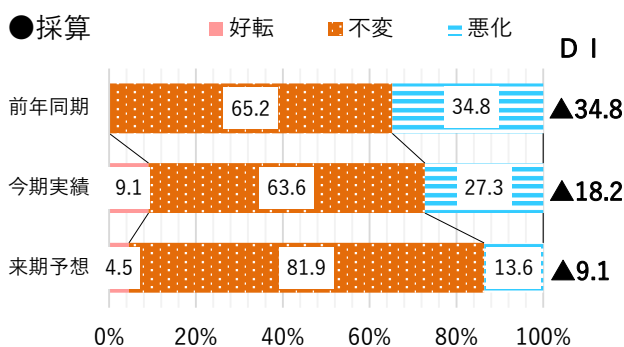
今期の売上高DIは▲13.6で、前年同期と比べ0.6ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

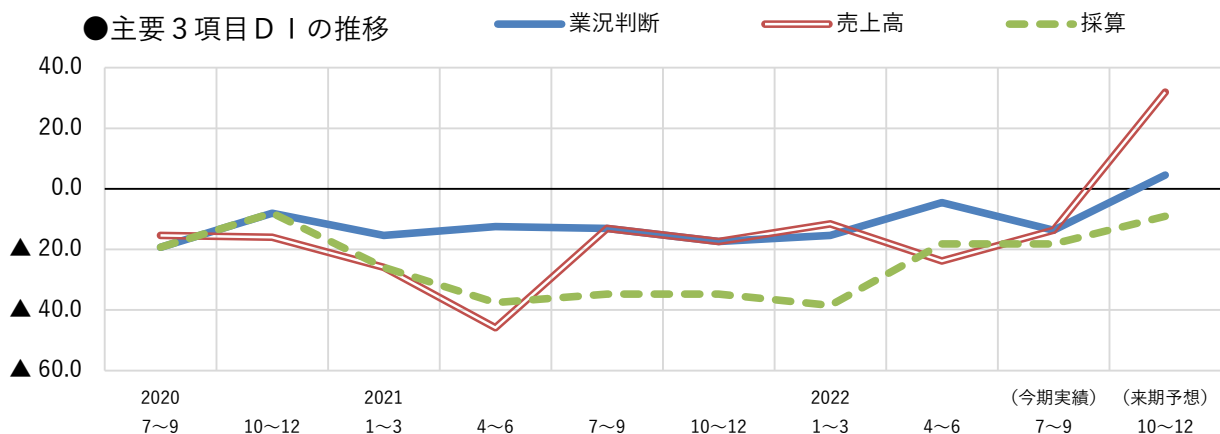


今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と比べ16.6ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



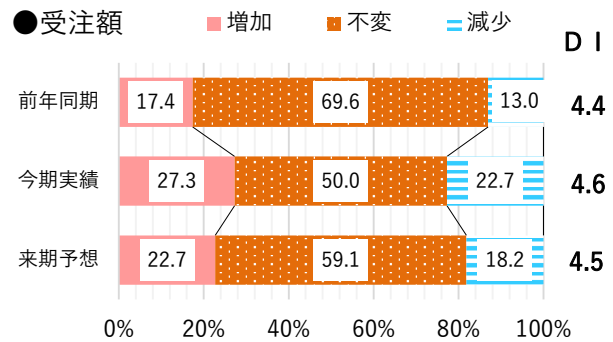
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

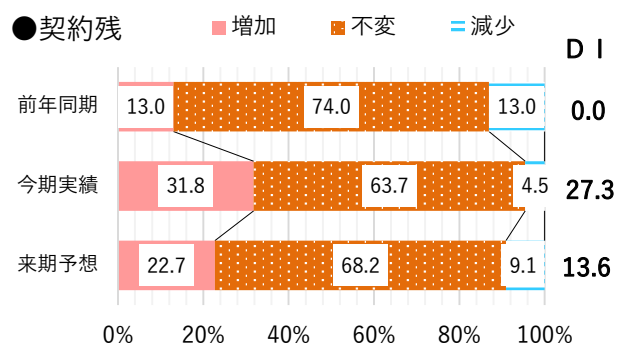
今期の受注額DIは4.6で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期は、受注額のほぼ横ばいを予想しています。



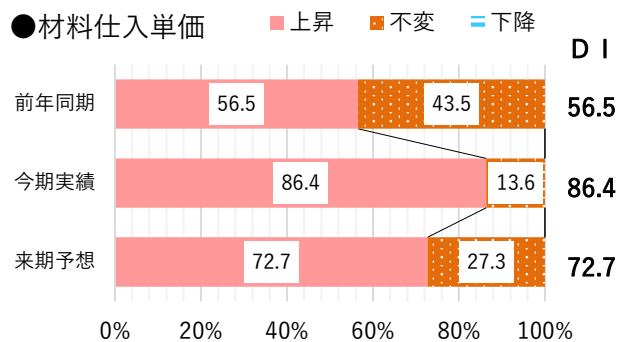
今期の契約残DIは27.3で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは86.4で、前年同期と比べ29.9ポイント上昇しました。

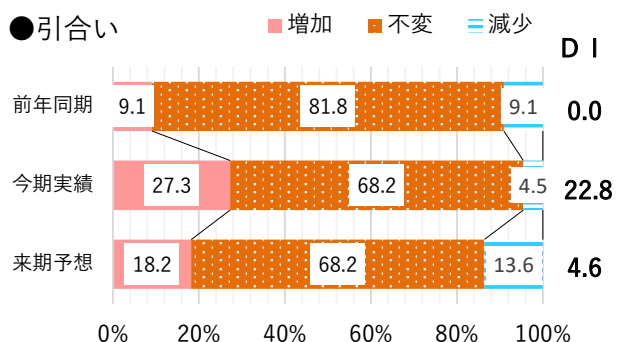
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは22.8で、前年同期と比べ22.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

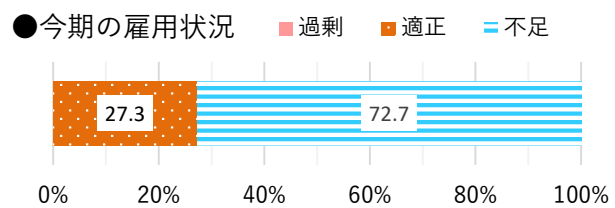
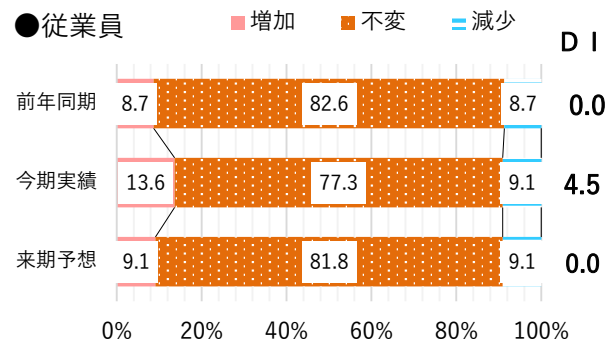
今期の従業員DIは4.5で、前年同期と比べ4.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は27.3%、不足していると回答した企業の割合は72.7%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の50.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

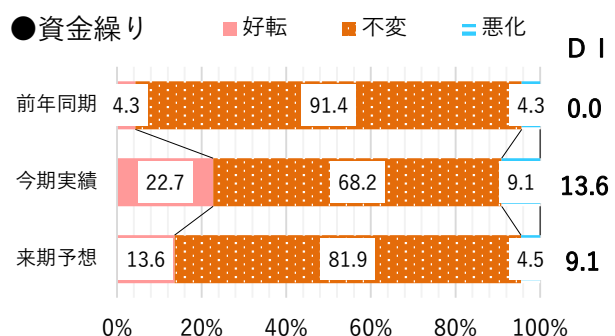


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

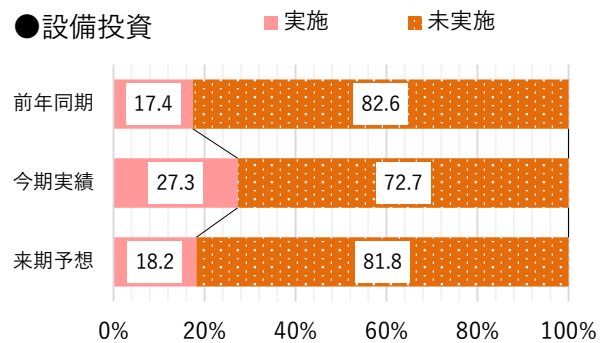
今期の資金繰りDIは13.6で、前年同期と比べ13.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



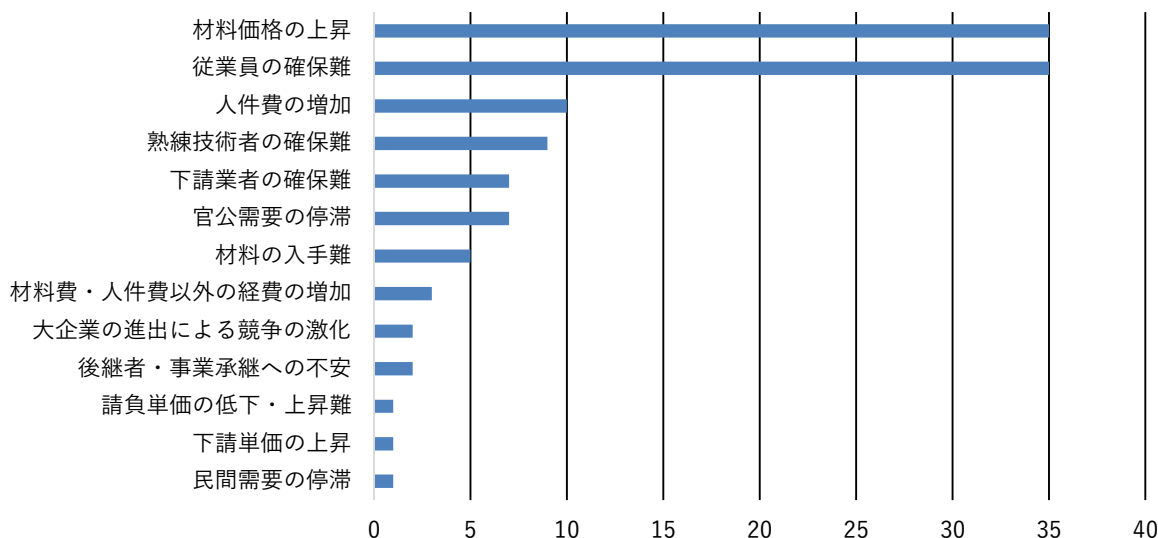
設備投資を実施した企業の割合は27.3%で、前年同期と比べ9.9%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「建設機械」、「OA機器」、「福利厚生」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は18.2%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」（同位）、2位が「人件費の増加」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料高と円安の影響が拡大しており、個人客への販売価格の転嫁に苦労している。（一般土木工事業）
- 売上は多少増加したが、材料価格の高騰によって利益はあまり伸びなかった。（一般土木工事業）
- 仕入単価の上昇分を請負単価に転嫁できず、経営を圧迫している。（一般土木工事業）
- 売上は増加した。サッシやガラスの仕入単価が上昇した。（職別工事業）
- 人材不足のため売上が減少した。（職別工事業）
- 昨年より受注額が増えた。（一般管工事業）
- 受注が減少し、売上も減少した。（造園業）
- 完成工事額と資金繰りは好転したが、仕入単価が上昇しており、業況は不変だった。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 人材不足で、厳しい状況が予想される。インドネシア人を雇用する予定だ。（職別工事業）
- 受注物件が多く完成まで出費がかさむため、一時的に資金繰りが悪化する。（一般管工事業）

市内企業倒産状況

2022年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は0件、前年同期比減少
負債総額は0円、前年同期比減少

	倒産件数		負債総額
	<u>0件</u>		<u>0円</u>
前年同期比	件数 -1件 (前年同期 1件)		負債 -5,100万円 (前年同期 5,100万円)

■4月	なし		
■5月	なし		
■6月	なし		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2022年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は89件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は64棟177戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	<u>89件</u>		<u>64棟177戸</u>
前年同期比	件数 -34件 (前年同期 123件)		戸数 -25棟+44戸 (前年同期 89棟133戸)
※変更確認又は変更通知を除く。			